専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインに基づく情報提供　～平成 30 年度～

１．建学の精神

教育・文化を通して地域社会、国家の発展に寄与する

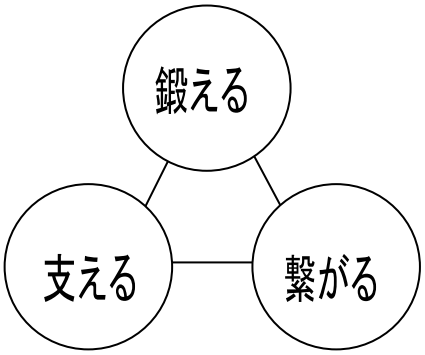
２．教育目的

本校は、学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第１２４条及び第１２５条の規定に基づき、高等学校教育の基礎の上に工業関係、商業実務関係及び文化教養関係の知識と技能を授ける専門課程を設置し、人格の陶冶をはかり、社会に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

３．教育目標及び計画

「入学～卒業後まで、多面的・長期的な教育支援を行い、

『面倒見の良い学校づくり』を実践する。



(1)　「鍛える」

現代社会、特に地元産業が求める「即戦力となる人材」の輩出を目的に、資格・能力・知識を身につけさせ、各分野の「スペシャリスト」を育成する。

(2)　「支える」

教育効果を最大にするために「学生と教職員との信頼関係」を確立し、教職員全体で学生の支援にあたることで、コミュニケーション能力が高く、自ら学ぶことのできる学生を育成する。

(3)　「繋がる」

希望する就職へ繋がるために、資格や技能の他に「社会的常識やマナー、コミュニケーション能力」を備えた明るく健康で建設的な意思をもって行動できる人材を育成する。

学生との繋がりを大切にし、卒業後の再就職まで支援していく。

(4)　「国際人の育成」

本校は、国際情報ビジネス専門学校、国際介護福祉専門学校と、いずれも『国際』を校名に冠する学校である。視野の広い、国際的に物事を考えられる、人間性と感覚を育成する。

４．校長名、所在地、連絡先等

校長名　　大森　義紀

所在地　　栃木県宇都宮市大通り１丁目２番地５号

連絡先　　TEL　０２８－６２２－８１１０

５．学院、学校の沿革、歴史

1985 年　学校法人 TBC 学院設立
宇都宮市に「国際情報ビジネス専門学校（専門課程）」を開校

1989 年　「国際情報ビジネス専門学校（高等課程）」を開校

1990 年　大田原市に「大田原情報ビジネス専門学校（専門課程）」を開校

1991 年　小山市に「国際テクニカルデザイン専門学校（専門課程）」を開校

1992 年　小山市に「国際テクニカル調理師専修学校（高等課程）」を開校

1995 年　「大田原情報ビジネス専門学校」から「専門学校国際スクールオブビジネス」に校名変更

1996 年　「国際情報ビジネス専門学校（高等課程）」の今泉校舎完成
「国際テクニカル調理師専修学校」から「国際テクニカル調理師専門学校」に校名を変更し、調理分野の専門課程を設置
「専門学校国際スクールオブビジネス（高等課程）」を開校

1999 年　宇都宮市に「国際介護福祉専門学校（専門課程）」を開校
「国際情報ビジネス専門学校」に「メイク＆スタイリスト学科」を開設

2005 年　宇都宮市に「国際ファッションビューティ専門学校（専門課程）」を開校
宇都宮市に「国際ペット総合専門学校（専門課程）」を開校

2006 年　宇都宮市に「国際ティビィシィ看護専門学校（専門課程）」を開校
小山市に「国際テクニカル美容専門学校（専門課程）」を開校

2007 年　「専門学校国際スクールオブビジネス」から「国際自動車・ビューティ専門学校」に校名変更

2008 年　「国際テクニカルデザイン専門学校」から「国際テクニカルデザイン・自動車専門学校」に校名変更

2012 年　宇都宮市に「国際テクニカル調理師専門学校宇都宮校」を開校
宇都宮市に「国際テクニカル理容美容専門学校」を開校
「国際情報ビジネス専門学校（高等課程）」から「国際 TBC 高等専修学校」に 校名変更

2016 年　「国際テクニカル調理師専門学校」から「国際 TBC 調理・パティシエ専門学校」に校名変更

６．各学科等の教育

（１）入学者数、入学定員、在学総数

学科名	コース名	入学定員	入学者数	在籍総数
デジタルクリエイター	ＣＧ・ゲーム・アニメ・映像 イラスト・まんが	２０	１４	２３
モバイルアプリクリエイター	モバイルアプリクリエイター ICT クラウドサービスエンジニア	２０	１１	２６
情報処理	システム開発 ネットワークセキュリティ システム運用	２０	２７	５６
	アドバンスト	１０	０	８
	アルティメット（高度専門士）	１０	０	４
トラベルホテル	トラベルホテル ホテルサービス	２０	１７	８
公務員法律	行政事務職 警察官・消防官 郵政・鉄道	２０	６	１９

（２）進級・卒業要件等（成績評価基準、卒業・修了の認定基準等）

１）通年の成績評価が全て C 以上であること。
２）各コースにより指定された認定試験に合格すること。（該当する場合のみ受験）
３）各コースにより指定された基準検定を取得すること。
４）90%以上の出席率であること。
５）各科目それぞれ 70%以上の出課率及び 80%以上の総出課率であること。
６）学費、その他学校納付金の納入が完了していること
７）卒業前研及び海外研修旅行に参加していること。

（３）取得を目指す資格・検定等、及び実績

【デジタルクリエイター学科】

資格・検定名称	基準検定	2017 年度合格者数
AFT 色彩検定 2 級	○	24
WEB クリエイター能力認定試験	○	19
FPhotoshop クリエイター能力認定試験	○	4
Illustrator クリエイター能力認定試	○	5

【モバイルアプリクリエイター学科】

資格・検定名称	基準検定	2017 年度合格者数
ＩＴパスポート	○	6
Java SE 7/8 Bronze	○	2

【情報処理学科】

資格・検定名称	基準検定	2017 年度合格者数
基本情報技術者	○	14
.comMasterADVANCE	○	23
Oracle　Java SE7 Bronze	○	19

【トラベルホテル学科】

資格・検定名称	基準検定	2017 年度合格者数
国内旅程管理者研修	○	8
国内旅行業務取扱管理者	○	10
総合旅行業務取扱管理者	○	2

（４）授業科目等の概要

授業科目等の概要

（文化教養専門課程デジタルクリエイター学科）平成３０年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ドローイング	デッサンや素描などの基本的な技術の習得	1・2通	204			○		○				○
○			ベーシックデザイン	グラフィックデザインの基本的な技術の習得	1・2通	204			○		○				○
○			２ＤＣＧ・ドロー	Illustratorの操作や基本技術の習得	1・2通	102			○		○			○	
○			２ＤＣＧ・レタッチ	Photoshopの操作や基本技術の習得	1・2通	102			○		○			○	
○			色彩基礎	ＡＦＴ色彩検定対策	1・2通	255		○			○		○		
○			HTML基礎	XHTML、CSSの基礎の習得	2前	51			○		○			○	
○			エフェクト演習	AffterEffectsの基礎の習得	2後	51			○		○			○	
○			就職実務	履歴書、エントリーシートの記入、面接対策	1・2通	153			○		○		○		
○			モーション	３ＤＣＧによるアニメーションの基礎の習得	1通	102			○		○		○		
○			デッサン	鉛筆デッサン	1通	102			○		○			○	
○			課題研究	イラスト、ＣＧ課題の制作	1・2通	120			○		○			○	

○			撮影実習	動画の撮影、編集	2通	51				○	○			○	
	○		３ＤＣＧ制作Ⅰ	ＭＡＹＡによる３ＤＣＧの基礎の習得	1通	102			○		○		○		
	○		映像編集Ⅰ	映像制作の基礎の習得	1通	102			○		○		○		
	○		イラスト制作Ⅰ	ＭＡＹＡによる３ＤＣＧの基礎の習得	1・2通	102			○		○		○		
	○		漫画制作Ⅰ	映像制作の基礎の習得	1・2通	102			○		○		○		
	○		３ＤＣＧ制作Ⅱ	ＭＡＹＡによる３ＤＣＧの基礎の習得	1・2通	102			○		○		○		
	○		映像編集Ⅱ	映像制作の基礎の習得	1・2通	102			○		○		○		
	○		イラスト制作Ⅱ	ＭＡＹＡによる３ＤＣＧの基礎の習得	2通	102			○		○		○		
	○		漫画制作Ⅱ	映像制作の基礎の習得	2通	102			○		○		○		
合計				20　科目	1905単位時間（　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てＣ以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前後期
	１学期の授業期間	17週

授業科目等の概要

（文化教養専門課程デジタルクリエイター学科）平成３０年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ドローイング	デッサンや素描などの基本的な技術の習得	1・2通	204			○		○				○
○			ベーシックデザイン	グラフィックデザインの基本的な技術の習得	1・2通	204			○		○				○
○			２ＤＣＧ・ドロー	Illustratorの操作や基本技術の習得	1・2通	102			○		○			○	
○			２ＤＣＧ・レタッチ	Photoshopの操作や基本技術の習得	1・2通	102			○		○			○	
○			色彩基礎	ＡＦＴ色彩検定対策	1・2通	255		○			○		○		
○			HTML基礎	XHTML、CSSの基礎の習得	2前	51			○		○			○	
○			エフェクト演習	AffterEffectsの基礎の習得	2後	51			○		○			○	
○			就職実務	履歴書、エントリーシートの記入、面接対策	1・2通	153			○		○		○		
○			モーション	３ＤＣＧによるアニメーションの基礎の習得	1通	102			○		○		○		
○			デッサン	鉛筆デッサン	1通	102			○		○			○	
○			課題研究	イラスト、ＣＧ課題の制作	1・2通	120			○		○			○	

○			撮影実習	動画の撮影、編集	2通	51				○	○			○	
	○		３ＤＣＧ制作Ⅰ	ＭＡＹＡによる３ＤＣＧの基礎の習得	1通	102			○		○		○		
	○		映像編集Ⅰ	映像制作の基礎の習得	1通	102			○		○		○		
	○		イラスト制作Ⅰ	ＭＡＹＡによる３ＤＣＧの基礎の習得	1・2通	102			○		○		○		
	○		漫画制作Ⅰ	映像制作の基礎の習得	1・2通	102			○		○		○		
	○		３ＤＣＧ制作Ⅱ	ＭＡＹＡによる３ＤＣＧの基礎の習得	1・2通	102			○		○		○		
	○		映像編集Ⅱ	映像制作の基礎の習得	1・2通	102			○		○		○		
	○		イラスト制作Ⅱ	ＭＡＹＡによる３ＤＣＧの基礎の習得	2通	102			○		○		○		
	○		漫画制作Ⅱ	映像制作の基礎の習得	2通	102			○		○		○		
合計				20　科目	1905単位時間（　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てＣ以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前後期
	１学期の授業期間	17週

授業科目等の概要

（工業専門課程　情報処理学科　システム開発コース）平成３０年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ概論Ⅰ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	1前	270		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	1通	270		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅰ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	1後	270		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅰ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	1後	176		○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接指導を行う。	1通	34		○	△		○		○		
○			コンピュータ概論Ⅱ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	2前	100		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅱ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅱ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅱ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			就職実務Ⅱ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接時に必要な知識を学ぶ。	2通	34		○	△		○		○		
○			Ｃ言語実習	Ｃ言語の基礎を学び、プログラムを作成する。	2通	150		△		○	○		○		

○			Ｊａｖａプログラミング	Ｊａｖａ言語の基礎を学び、Javaプログラミング検定合格を目指す。	2通	226		△		○	○		○		○
○			ソフトウェア製作	Ｊａｖａ言語を使用し、プログラムを設計・製作し作品を作成する。	2後	210				○	○		○		
合計				13科目	2040単位時間(　　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基本情報技術者試験またはそれに準じる資格の取得　②科目ごとの総合評価が全て C 以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課80%以上　④学費及び補助活動費が納入済み	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１７週

授業科目等の概要

（工業専門課程情報処理学科　ネットワークセキュリティコース）平成３０年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ概論Ⅰ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	1前	270		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	1通	270		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅰ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	1後	270		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅰ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	1後	176		○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接指導を行う。	1通	34		○	△		○		○		
○			コンピュータ概論Ⅱ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	2前	100		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅱ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅱ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅱ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			就職実務Ⅱ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接時に必要な知識を学ぶ。	2通	34		○	△		○		○		
○			Ｃ言語実習	Ｃ言語の基礎を学び、プログラムを作成する。	2通	150		△		○	○		○		

○			Ｊａｖａプログラミング	Ｊａｖａ言語の基礎を学び、Javaプログラミング検定合格を目指す。	2通	226		△		○	○		○		○
○			ソフトウェア製作	Ｊａｖａ言語を使用し、プログラムを設計・製作し作品を作成する。	2後	210				○	○		○		
合計				13科目	2040単位時間(　　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基本情報技術者試験またはそれに準じる資格の取得　②科目ごとの総合評価が全て C 以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課80%以上　④学費及び補助活動費が納入済み	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１７週

授業科目等の概要

（工業専門課程　情報処理学科　システム運用コース）平成３０年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ概論Ⅰ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	1前	270		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	1通	270		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅰ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	1後	270		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅰ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	1後	176		○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接指導を行う。	1通	34		○	△		○		○		
○			コンピュータ概論Ⅱ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	2前	100		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅱ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅱ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅱ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			就職実務Ⅱ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接時に必要な知識を学ぶ。	2通	34		○	△		○		○		
○			Ｃ言語実習	Ｃ言語の基礎を学び、プログラムを作成する。	2通	150		△		○	○		○		

○			Ｊａｖａプログラミング	Ｊａｖａ言語の基礎を学び、Javaプログラミング検定合格を目指す。	2通	226		△		○	○		○		○
○			ソフトウェア製作	Ｊａｖａ言語を使用し、プログラムを設計・製作し作品を作成する。	2後	210				○	○		○		
合計				13科目	2040単位時間(　　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基本情報技術者試験またはそれに準じる資格の取得　②科目ごとの総合評価が全て C 以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課80%以上　④学費及び補助活動費が納入済み	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１７週

授業科目等の概要

（工業専門課程　情報処理学科　アドバンスドコース）平成３０年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ概論Ⅰ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	1前	270		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	1通	270		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅰ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	1後	270		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅰ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	1後	176		○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接指導を行う。	1通	34		○	△		○		○		
○			コンピュータ概論Ⅱ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	2前	100		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅱ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅱ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅱ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			就職実務Ⅱ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接時に必要な知識を学ぶ。	2通	34		○	△		○		○		
○			Ｃ言語実習	Ｃ言語の基礎を学び、プログラムを作成する。	2通	150		△		○	○		○		

○			Ｊａｖａプログラミング	Ｊａｖａ言語の基礎を学び、Javaプログラミング検定合格を目指す。	2通	226		△		○	○		○		○
○			ソフトウェア製作	Ｊａｖａ言語を使用し、プログラムを設計・製作し作品を作成する。	2後	210				○	○		○		
合計				13科目	2040単位時間(　　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基本情報技術者試験またはそれに準じる資格の取得　②科目ごとの総合評価が全て C 以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課80%以上　④学費及び補助活動費が納入済み	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１７週

授業科目等の概要

（工業専門課程　情報処理学科　アルティメット（高度専門士）コース）平成３０年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ概論Ⅰ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	1前	270		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅰ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	1通	270		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅰ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	1後	270		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅰ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	1後	176		○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接指導を行う。	1通	34		○	△		○		○		
○			コンピュータ概論Ⅱ	コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの動作原理を学ぶ。	2前	100		○			○		○		
○			プログラミング基礎Ⅱ	プログラミングのための基礎知識を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			アルゴリズム入門Ⅱ	コンピュータ処理の手順、一般的なアルゴリズムを学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			ネットワーク概論Ⅱ	ネットワークの基礎理論を学ぶ。	2後	100		○			○		○		
○			就職実務Ⅱ	就職活動に必要な、履歴書の書き方。面接時に必要な知識を学ぶ。	2通	34		○	△		○		○		
○			Ｃ言語実習	Ｃ言語の基礎を学び、プログラムを作成する。	2通	150		△		○	○		○		

○			Ｊａｖａプログラミング	Ｊａｖａ言語の基礎を学び、Javaプログラミング検定合格を目指す。	2通	226		△		○	○		○		○
○			ソフトウェア製作	Ｊａｖａ言語を使用し、プログラムを設計・製作し作品を作成する。	2後	210				○	○		○		
合計				13科目	2040単位時間(　　単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基本情報技術者試験またはそれに準じる資格の取得　②科目ごとの総合評価が全て C 以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課80%以上　④学費及び補助活動費が納入済み	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	１７週

授業科目等の概要

（商業実務専門課程トラベルホテル学科　トラベルサービスコース）平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			旅行業法・旅行業約款・宿泊約款	国家試験科目である、旅行業における守るべき法律や、旅行業者と旅行者の約束事（取消料や責任範囲）を学ぶ。	1前	48		○							
○			観光地理	国家試験科目である、国内・海外の観光地理を学ぶ。	1通2通	212		○							
○			国内運賃料金	ＪＲの運賃料金の計算方法及び、航空券、貸切バス、フェリー、宿泊料と、ツアープランニングに必須の料金の算出方法を学ぶ。	1前	48		○							
○			国内国家試験対策	国家試験合格のための集中講義。	1通	120			○						
○			英会話	観光業界で使用されている、実践的な観光英会話の基本会話を中心に、観光業に必須のフレーズを身につけていく。	1通2通	122			○						
○			観光英語	観光英検２級程度の観光業界で使用されている観光業ならではの英単語や言い回しを学ぶ。	1通2通	90		○							
○			コンピュータ実習	サーティファイWord文書処理検定、Excel表計算検定レベルのWord・Excelの演習。	1通2通	188			○						
○			就職活動対策	就職活動の対策として、SPI、面接、グループディスカッション、グループワークを中心に練習をする。	1通2通	196			○						
○			コミュニケーションスキル	障害者差別解消法が施行され、観光業におけるバリアフリー化に対応するため、手話を学ぶ。	2通	112			○						
○			ビジネスマナー	観光業界の専門用語やマナーを知るとともに、社会人の基本となる、敬語や立ち振る舞い、漢字を学び、社会人力を身につける。	1後2後	84			○						
○			イベント企画	身近なイベントを題材に、想像力・実行力を身につけるための企画を立てる。	2通	112			○						

○			観光実務実習	日本人に人気のある海外・国内の観光地に実際に赴き、観光地の情報を実体験で得る。	1後2後	120				○					
○			インターンシップ	観光産業の現場において、実際に働くことによって、接客・サービスを体験し、厳しさを経験することで、やりがいを見いだす。	1後	80				○					○
	○		総合国家試験対策	国家試験合格のための集中講義。	1前	120		○							
	○		旅行業基礎	学科が目指すべき業界の業務内容・職種・企業の研究を行い、観光業に携わる価値を理解させる。	1後2通	80		○							
	○		観光マネジメント	旅程管理研修試験を学び、業務の流れや内容を把握し、必要なサービスマインドを理解する。	2通	60			○						
合計				16科目	1792単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てＣ以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前後期
	１学期の授業期間	17週

授業科目等の概要

（商業実務専門課程　トラベルホテル学科　ホテルサービスコース）平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			旅行業法・旅行業約款・宿泊約款	国家試験科目である、旅行業における守るべき法律や、旅行業者と旅行者の約束事（取消料や責任範囲）を学ぶ。	1前	48		○							
○			観光地理	国家試験科目である、国内・海外の観光地理を学ぶ。	1通2通	212		○							
○			国内運賃料金	ＪＲの運賃料金の計算方法及び、航空券、貸切バス、フェリー、宿泊料と、ツアープランニングに必須の料金の算出方法を学ぶ。	1前	48		○							
○			国内国家試験対策	国家試験合格のための集中講義。	1通	120		○							
○			英会話	観光業界で使用されている、実践的な観光英会話の基本会話を中心に、観光業に必須のフレーズを身につけていく。	1通2通	122			○						
○			観光英語	観光英検２級レベルの観光業界で使用されている観光業ならではの英単語や言い回しを学ぶ。	1通2通	90		○							
○			コンピュータ実習	サーティファイWord文書処理検定、Excel表計算検定レベルのWord・Excelの演習。	1通2通	188			○						
○			就職活動対策	就職活動の対策として、SPI、面接、グループディスカッション、グループワークを中心に練習をする。	1通2通	196			○						
○			コミュニケーションスキル	障害者差別解消法が施行され、観光業におけるバリアフリー化に対応するため、手話を学ぶ。	2通	112			○						
○			ビジネスマナー	観光業界の専門用語やマナーを知るとともに、社会人の基本となる、敬語や立ち振る舞い、漢字を学び、社会人力を身につける。	1後2後	84			○						
○			イベント企画	身近なイベントを題材に、想像力・実行力を身につけるための企画を立てる。	2通	112			○						

○			観光実務実習	日本人に人気のある海外・国内の観光地に実際に赴き、観光地の情報を実体験で得る。	1後2後	120				○					
○			インターンシップ	観光産業の現場において、実際に働くことによって、接客・サービスを体験し、厳しさを経験することで、やりがいを見いだす。	1後	80				○					○
	○		ブライダルプランナー検定対策	ブライダルプランナー検定の対策をすることでホテルや結婚式場に就職しても困らない知識を習得する。	1前	120			○						
	○		ホテルブライダル知識	ホテル業務、ブライダル業務に携わる際に必要となる用語や基礎知識を学ぶ。	1後2通	80		○							
	○		料飲接遇サービス	レストランサービス・宴会サービスで必要となる「サーブ」や「テーブルセッティング」を、実習により学ぶ。	2通	60			○						
合計				16科目	1792単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てＣ以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前後期
	１学期の授業期間	17週

授業科目等の概要

（教育・福祉専門課程介護福祉学科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の尊厳と自立	日常生活や社会の中で尊厳について考える。尊厳の概要が掴めてきたら、介護現場における尊厳について考えを発展させ、尊厳を守る介護について考える。	1前	30		○			○		○		
○			人間関係とコミュニケーション	なぜコミュニケーションが必要なのか、その手段にはどのような方法があるのかを学ぶ。またそれらの表現方法を実際に経験し人間関係の形成に役立てる。	1前	30		△	○		○			○	
○			人間関係とコミュニケーション（手話）	聴覚障害者を講師として授業を展開する。指文字や単語や数字表現など基本的な技法をスタートとして、挨拶や自己紹介や簡単な会話へと発展させていく。また介護の場面での基本的な用語や会話についても実践していく。	2後	30		△	○		○			○	
○			人間関係と心理学	人の心のあり方を発達段階に応じて学んでいく。また心理的な援助方法やさまざまな心理用法についても学ぶ。演習を中心に進め楽しみながら心理学の初歩を学んでいく。	1後	30		○			○			○	
○			社会の理解	生活の基盤である家庭や地域、社会とは何であるかを学ぶ。その上で各制度、特に社会保障制度とは何であるかその概要について学び、特に介護保険法・障碍者自立支援制度についての学びを深める。	2通	60		○			○			○	
○			家政学	移住食の基本知識を学ぶ。さらに高齢者と障害者の特性を学び、さまざまな調理の方法や、提供形態を実際に調理してみる。また簡単な繕いの技術を演習で実践し身につける。さらに快適な住環境の実際を学ぶ。	2後	30		○	△		○			○	
○			生命科学	人間の誕生から死までのさまざまな場面で生命を考える。また最近の社会問題にもスポットをあて、生命を考えていく。	1前	30		○			○		○		
○			日本文化	日本の気質・特性や基本的な習慣を学ぶ。また行事やしきたりなどの種類とその意味について学び、理解を深める。またの日本だけでなく生まれ育った郷土の文化についても学ぶ。	1前	30		○			○		○		

○			レクリエーション	アクティビティケアとは何か、その理念や意義と目的について学ぶ。またアクティビティの実際について演習を中心に学生自身が参加をし実践をして、アクティビティの理念を知り、技術を修得する。	1通	60		△	○	△	○	○			
○			介護の基礎Ⅰ	介護の歴史・制度・倫理など介護の根幹をなす部分を学ぶ。またノーマライゼーションなどの基本理念への理解を深められるようにする。さらに感染予防や連携など欠かすことができない知識も学ぶ。	1通	150		○			○		○		
○			介護の基礎Ⅱ	介護の歴史・制度・倫理など介護の根幹をなす部分を学ぶ。またノーマライゼーションなどの基本理念への理解を深められるようにする。さらに感染予防や連携など欠かすことができない知識も学ぶ。	2前	30		○			○		○		
○			コミュニケーション技術	場面に応じたコミュニケーションや利用者に応じた技術を講義を通して学ぶ。また現場を想定した演習を多く設定し、コミュニケーション力を体得できるようにする。	2通	60		○	△		○			○	
○			生活支援技術Ⅰ	一人一人の生活状況を的確にアセスメントし、他職種との連携を学び、見守りから看取りまでのあらゆる介護場面において、共通する基本的な介護の知識・技術態度を統一する。	1通	180		△	○		○		○		
○			生活支援技術Ⅱ	人間が生きていく基盤である生活が、尊厳・安心、安全、快適、その人らしい要素で継続できるような生活環境を整えていく知識・技術を学ぶ。	2前	60		○	△		○		○		
○			生活支援技術Ⅲ	加齢による障害のみならず、障害者自立支援法の適応も視野に入れた障害の形態別に適応する援助技術を総合的の学ぶ。障害と生活への影響を理解し、実際の援助技術展開を演習を中心に学ぶ。	2通	60		○	△		○			○	
○			介護課程Ⅰ	介護課程の倫理と実習体験を関連づけながら、介護課程が利用者を主体とする生活支援活動の展開方法であることが理解できるよう具体的な事例を多く取り入れながら授業を進める。最初は学生自身の身に置き換えり身近なわかりやすい例示を挙げさらに高齢者等の事例で学び、介護実習で展開の演習をし、それを学生で共有し学ぶ。	1後	60		△	○		○		○		

○			介護課程Ⅱ	介護課程の倫理と実習体験を関連づけながら、介護課程が利用者を主体とする生活支援活動の展開方法であることが理解できるよう具体的な事例を多く取り入れながら授業を進める。最初は学生自身の身に置き換えり身近なわかりやすい例示を挙げさらに高齢者等の事例で学び、介護実習で展開の演習をし、それを学生で共有し学ぶ。	2通	90		△	○	△	○	○	○		○
○			介護総合演習Ⅰ	介護実習に向けて、予備知識、動機づけの準備を行う。実習前には実習に必要な知識を学び目的を明確に実習をより意味のあるものとする。また、個人差も考慮した指導をしていく。	1通	90		○	△		○		○		
○			介護総合演習Ⅱ	介護実習に向けての心がまえ、予備知識、動機づけ等の準備を行う。実習前には実習に必要な知識を学び目標を明確に実習により意味挑めるようにする。実習後には実習での学びを個人及びグループで振り返り実習をより意味のあるものとする。また個人差も考慮する。	2通	30		○	△		○		○		
○			介護実習Ⅰ	学内で学んだ学習を基礎とし、介護の実践を学ぶ。学内の授業にあわせながら段階ごとの目標を設定し、目標に応じた体験をする。達成度を高めるため、またより効果的な実習とするため、介護総合演習の時間などとタイアップさせながら、内容を充実させる。	1・2通	136				○		○	○		○
○			介護実習Ⅱ	学内で学んだ学習を基礎とし、介護の実践を学ぶ。学内の授業にあわせながら段階ごとの目標を設定し、目標に応じた体験をする。達成度を高めるため、またより効果的な実習とするため、介護総合演習の時間などとタイアップさせながら、内容を充実させる。	1・2通	320				○		○	○		○
○			発達と老化の理解	人間の誕生から死に至るまでの心身の発達や生理的変化をイメージする。その上で心身の変化が日常的に及ぼす影響、就労・経済・役割や人間関係の状況を知り、高齢者のこころを深く理解する。	2通	60		○			○		○		
○			認知症の理解Ⅰ	認知症について歴史、医学的知識、生活への影響などを学ぶ。さらに認知症の状態に応じた介護方法を理解する。施設実習での実体験を用いながら認知症の対応をする。	1後	30		○			○		○		
○			認知症の理解Ⅱ	認知症について歴史、医学的知識、生活への影響などを学ぶ。さらに認知症の状態に応じた介護方法を理解する。施設実習での実体験を用いながら認知症の対応をする。	2前	30		○			○			○	

○			障害の理解Ⅰ	障害に関する視点を学び、基本を理解した上で、障害の形態別に応じた介護法を学ぶ。それぞれの常態でどのような介護が望ましいかを演習を中心として、1つ1つ考える授業を展開していく。	1後	30		○			○			○	
○			障害の理解Ⅱ	障害に関する視点を学び、基本を理解した上で、障害の形態別に応じた介護法を学ぶ。それぞれの常態でどのような介護が望ましいかを演習を中心として、1つ2つ考える授業を展開していく。	2通	60		○			○			○	
○			こころとからだのしくみ	こころのしくみについてはこころの概念や働きについて学ぶ。からだについてもそれぞれの機能や働きについて学び、生活支援技術と絡ませながら総合的・一体的に学んいく。	1通	120		○			○			○	
○			医療的ケア論Ⅰ	痰の吸引、経管栄養等の技術の根拠となる人体の構造や機能、安全への配慮や心理的側面への配慮について、視聴覚教材等を用いながら学生が具体的に理解させる。	1後	60		○			○			○	
○			医療的ケア論Ⅱ	痰の吸引及び経管栄養等の技術を、学生が具体的に理解しながら練習し、習得できるようにする。	2前	60			○		○		○	○	
○			ミドルウエア実習	パソコンの基本技術の習得を目指し、ワード・エクセル・パワーポイントの操作を実践的に学ぶ。習得したパワーポイントの技術を使い発表の体験を行う。	2通	60			○		○			○	
○			試験対策	卒業時に実施する卒業試験の対策授業。2年間で学んだカリキュラム内容を実践形式で問題を解いていく。介護福祉士として相応しい能力が身についているかの確認作業をする。	2後	90		△	○		○		○		
○			特別講義	単発で専門的内容を学ぶ。例えば障害をもつ当事者の話やリハビリテーションの専門家の講義など見識を深めさせる。	1・2通	30		○			○			○	
合計				32科目	2226単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てＣ以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

（教育・社会福祉専門課程　こども学科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			英会話Ⅰ	基本文型のパターンを応用して、コミュニケーションの手段として実践力みにつける。またこれらのことを学ぶことで、英語表現力の養成を目指す。保育英検の取得。	1・2後	32			○		○			○	
○			健康科学	現代社会は「超高齢社会」「余暇社会」などと呼ばれ、人類がかつて経験したことのない時代を迎えている。このような中にあって、来るべく社会の問題や課題に対してスポーツはどのような意義や機能をもっているのであろうか。	1前	32		○			○			○	
○			日本国憲法	日本国憲法全体の主要事項（国民主権、平和主義、基本的人権尊重主義、統治機構）の意味内容を体系的に理解しながら、そこで取り上げられる政治的・憲法的課題について自ら考える学習を行う。	2後	32		○			○			○	
○			情報処理入門Ⅰ	近年、幼稚園や保育園でも情報機器が盛んに導入されるようになってきた。Word・Excelの最低限の操作でおたより等の保護者宛文書の作成を習得する。	1通	64		○			○		○		
○			音楽Ⅰ	音楽表現に関する知識や技術を学ぶ。それには子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術を身につける。具体的にはバイエルを中心としたピアノの基礎技術の習得とコールユーブンゲンを中心とした音楽の技術を習得する。	123通	384			○		○				
○			教育原理	初めに教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて学ぶ。その上で、教育の思想と歴史的返遷について学び今日の教育のに関する基礎的な理論について理解する。また、教育の制度について理解し、それに伴う教育実践にのさまざまな取り組みについて理解する。	2前	32		○			○				
○			教育心理学	保育の過程における心理学的法則や事実を理解し、効果的な保育を展開するための教育心理学の基本的事項について理解する。また、生涯発達的観点から幼児期から青年期までの保育と教育の関連を把握し、子どもも一人一人の発達に応じた教育的対応について理解する。	1後	32		○			○				
○			造形表現	幼児期に豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするねらいのもと、幼児の心身の発達を促し、リズム感をつけるとともに、体をとおした動きで様々な表現ができるよう、その方法と技術を身につける。	2後	32			○		○				

○			図画工作	自然やまわりの身近な環境とかかわりあって、自然物を使って自由な発想で造形活動を楽しめる感性を育てる。また、粘土や紙、砂など可塑性の高い素材を使って表現することを学ぶ。	1 2 3 通	224			○		○				
○			家族支援論	現在の家庭を取り巻く社会的状況と今日における家族生活を理解し、「子育て支援」の社会的役割と家族との関わりを学ぶ。また、「子育て」からみた家族の課題をはじめ、子育て支援の課題やその具体的展開を考察する。	2 前	32		○			○				
○			音楽(理論)	日常生活のすべてが音楽教育の場であるととらえ、豊かな音楽の楽しみがある生活を営むことの大切さを知る。また、音楽の基本的知識を習得する。	1 後	32			○		○				
○			社会福祉	現代社会における社会福祉の意義と歴史的返遷について理解する。これらのことを基礎に、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連。	1 後	32		○			○				
○			障がい児保育	障がい児保育を支える理念や歴史的返遷について学び、障害児とその保育内容について理解する。そして様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学び、障害のある子どもの保育計画を作成し、個別支援及び、障害のある子どものかかわりの中で保育実践について理解する。	2 後	32			○		○				
○			児童家庭福祉	子どもを取り巻く環境の変化や、子どもの犯罪・虐待、また家族機能の変化などによって、子どもの健やかな成長が妨げられている現状について自ら問題意識を持ち、児童家庭福祉における今後の課題としてどのように取り組んでいくべきか統計的に考察できる力を養う。	1 前	32		○			○				
○			子どもの保健Ⅰ	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学び、身体発達や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。これらを踏まえて、子どもの疾病の予防法と適切な対応について学ぶ。	2 後 3 前	64		○			○				
○			子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。そして、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。	2 前	32			○		○				
○			保育原理	「保育とは何か」ということに関する理解を深め、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組み姿勢を深めることを目的とする。制度としての保育所の役割や目的の理解から、保育の目的や意義を考察する。	2 通	32		○			○				
○			社会的養護	社会的養護の意義・歴史的返遷の把握を基盤に、児童観を含め児童の権利擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状及び課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達の支援の在り方について考察する。	1 後	32		○			○				

○			乳児保育	乳児保育の理念と歴史的返遷及び役割等について学び、保育所や乳児院等における乳幼児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満時の発育・発達について学び、健やかな成長を支えるための生活と遊び。	3前	32			○		○				
○			児童文化	児童文化の重要性を充分に認識し、内容を把握し、自分自身も様々な児童文化財に触れ、児童文化という分野の実践的な指導ができるようになれることを目標とする。	3前	32		○			○				
○			発達心理学	人間の発達を生涯発達的な視点からとらえ、それぞれの発達段階を理解し、発達期における課題と特徴、また心のありようを学ぶ。発達期における対人関係の重要性を学び、保育者と子どもとの連鎖的関係を理解する。	2前	32		○			○				
○			言葉Ⅱ	子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的に学ぶ。	2後	32		○			○				
○			教育課程総論	教育・保育の目的や目標を有効に達成するための保育内容を、子どもの心身の発達に応じて編成・計画をする。具体的には教育・保育課程及び指導計画の基礎的な考え方についての理解を進め、教育・保育課程の編成と指導計画の作成に関する方法論を把握する。	1後	32		○			○				
○			教育方法論	教育の方法に関する理論的知識を習得する。乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し説明できる。これらを踏まえ、保育現場における実践を構想する。	1前	32		○			○				
○			教職概論	保育者の役割や制度の検討を通して専門職に関する造詣おを深める。そして、専門職に携わる人間に必要とされ、求められる「子どもを知る」「子どもに働きかける」「実践を構成する」などの専門性の内容についての理解をする。また、保育者としての自己成長という観点からも考察を進める。	1前	32		○			○				
○			教育相談	「いじめ」「不登校」など子ども達の「こころ」をめぐる多様な問題や、児童虐待など親・養育者をめぐる問題が社会的課題となっている。そこで、子ども達の周りにいる大人達の役割や対応はどうあるべきかを学んでいく。	2後	32		○			○				

○			保育・教職実践演習	保育現場を知り実習前と後で振り返りをし、履修カルテを用いてスキル上げを図る。	2前	32			○		○				
○			マナー実践	一般常識・礼儀・電話応対・接遇等を習得し、保育に必要な保護者対応やクレーム処理なども学ぶ。	1前2後	64		○			○				
○			国語表現	保育現場で必要不可欠な記録に基づいて指導要録や連絡帳の書き方を習得。また、コミュニケーション力、向上のためにパネルディスカッションを実施し、人間関係の円滑さを学ぶ。	12前	128		○			○				
○			レクリエーション	アイスブレイクから始まり子どもたちに対しての遊びを学ぶ。レクリエーション活動に参加しレクリエーションインストラクターを取得する。	13通	128		○			○				
○			就職実務	働きとはどのようなことなのかベースにライフサイクルと仕事について考えていく。また、社会人としての一般常識として次の内容を中心に授業を行う。	123通	128		○			○				
○			保育実践	学習と保育実習などを通じて身につけた「保育者に求められる資質能力」を確認する。将来保育士に就いた際、自己に欠けている能力は何か、自己の課題を自覚し、自らが必要に応じてその資質能力の向上に努める。	3通	192		○			○				
○			コンピュータ実習	パワーポイントの基本操作を習得しデジタル絵本や保育だより等、プレゼンテーション能力を身につける。	3通	64			○		○				
○			実習事前事後指導	実りある保育実習・教育実習にするために、実習に向けての事前学習をし、保育の目的・内容・方法・心構えなどを学び、実習課題を明確化させる。また、事後学習において実習総括、評価、反省を行い、新たな学習目標を明確化させる。	123通	224			○		○				
○			幼稚園教育実習	幼稚園における教育実践について専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。	23通	160				○		○	○		○
○			保育実習Ⅰ・Ⅱ	種々の児童福祉施設での現場体験を通して、既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを具体的・総合的に実践する応用力を身につけることを目的とする。併せて、学校での今後の学習・研究課題を探求する。	23通	240				○		○	○		○
合計				35科目	2560単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てC以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	16週

授業科目等の概要

（教育・社会福祉専門課程　こども学科）平成29年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			日本国憲法	日本国憲法全体の主要事項（国民主権、平和主義、基本的人権尊重主義、統治機構）の意味内容を体系的に理解しながら、そこで取り上げられる政治的・憲法的課題について自ら考える学習を行う。	1前	32		○			○			○	
○			情報処理入門	近年、幼稚園や保育園でも情報機器が盛んに導入されるようになってきた。Word・Excelの最低限の操作でおたより等の保護者宛文書の作成を習得する。	1通	32		○			○		○		
○			国語表現法	保育現場で必要不可欠な記録に基づいて指導要録や連絡帳の書き方を習得。また、コミュニケーション力、向上のためにパネルディスかションを実施し、人間関係の円滑さを学ぶ。	1通	64		○			○				
○			就職実務	働きとはどのようなことなのかベースにライフサイクルと仕事について考えていく。また、社会人としての一般常識として次の内容を中心に授業を行う。	2通	64		○			○				
○			英会話	基本文型のパターンを応用して、コミュニケーションの手段として実践力みにつける。またこれらのことを学ぶことで、英語表現力の養成を目指す。保育英検の取得。	1前	32			○		○			○	
○			健康科学	現代社会は「超高齢社会」「余暇社会」などと呼ばれ、人類がかつて経験したことのない時代を迎えている。このような中にあって、来るべく社会の問題や課題に対してスポーツはどのような意義や機能をもっているのであろうか。	1前	16		○			○			○	
○			体育	スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎的知識、技術を修得することにくわえ、「誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを」という生涯スポーツの理念の実現に向けた学びを行なう。	1前	16			○						
○			保育原理	「保育とは何か」ということに関する理解を深め、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組み姿勢を深めることを目的とする。制度としての保育所の役割や目的の理解から、保育の目的や意義を考察する。	2前	32		○			○				
○			教育原理	初めに教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて学ぶ。その上で、教育の思想と歴史的返遷について学び今日の教育のに関する基礎的な理論について理解する。また、教育の制度について理解し、それに伴う教育実践にのさまざまな取り組みについて理解する。	1後	32		○			○				

○			児童家庭福祉	子どもを取り巻く環境の変化や、子どもの犯罪・虐待、また家族機能の変化などによって、子どもの健やかな成長が妨げられている現状について自ら問題意識を持ち、児童家庭福祉における今後の課題としてどのように取り組んでいくべきか統計的に考察できる力を養う。	2前	32		○			○				
○			社会福祉	現代社会における社会福祉の意義と歴史的返遷について理解する。これらのことを基礎に、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連。	1前	32		○			○				
○			相談援助	現代のライフスタイルと福祉ニーズの変化に対応した社会福祉実践者が必要とされている。そこで、社会福祉で学習したことを基礎に、相談援助の目的を明確化し、児童福祉実践者としての専門的な「方法」を理解し、活用できる専門技術を身につける。	2前	32		○							
○			社会的養護	社会的養護の意義・歴史的返遷の把握を基盤に、児童観を含め児童の権利擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状及び課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達の支援の在り方について考察する。	1後	32		○			○				
○			保育者論	保育者の役割や制度の検討を通して専門職に関する造詣おを深める。そして、専門職に携わる人間に必要とされ、求められる「子どもを知る」「子どもに働きかける」「実践を構成する」などの専門性の内容についての理解をする。また、保育者としての自己成長という観点からも考察を進める。	1前	32		○			○				
○			発達心理学	人間の発達を生涯発達的な視点からとらえ、それぞれの発達段階を理解し、発達期における課題と特徴、また心のありようを学ぶ。発達期における対人関係の重要性を学び、保育者と子どもとの連鎖的関係を理解する。	2前	32		○			○				
○			教育心理学	保育の過程における心理学的法則や事実を理解し、効果的な保育を展開するための教育心理学の基本的事項について理解する。また、生涯発達的観点から幼児期から青年期までの保育と教育の関連を把握し、子どもも一人一人の発達に応じた教育的対応について理解する。	1後	32		○			○				
○			子どもの保健Ⅰ	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学び、身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。これらを踏まえて、子どもの疾病の予防法と適切な対応について学ぶ。	1後	32		○							
○			子どもの保健Ⅱ	こどもの保健Ⅰを踏まえて、子どもの精神保健とその課題等を理解する。そして、保育における環境及び衛生管理、安全管理を理解し、施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。	2前	32		○							
○			子どもの保健Ⅲ	子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学び、これらの計画を効果的に実践するための保育活動や環境を考える。子どもの疾病とその予防について具体的に学ぶ。また緊急時の対応や事故防止、安全管理についても具体的に学ぶ。これらのことをふまえて現代社会における心の健康問題や地域活動についても理解する。	2後	32			○						
○			子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。そして、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する。	2前	32		○			○				

○			家庭支援論	現在の家庭を取り巻く社会的状況と今日における家族生活を理解し、「子育て支援」の社会的役割と家族との関わりを学ぶ。また、「子育て」からみた家族の課題をはじめ、子育て支援の課題やその具体的展開を考察する。	2前	32		○			○				
○			教育課程総論	教育・保育の目的や目標を有効に達成するための保育内容を、子どもの心身の発達に応じて編成・計画をする。具体的には教育・保育課程及び指導計画の基礎的な考え方についての理解を進め、教育・保育課程の編成と指導計画の作成に関する方法論を把握する。	1前	32		○			○				
○			保育内容総論	保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解する。また、擁護と教育が一体的に展開することを具体的な実践につなげて理解する。また、保育現場を取り巻く諸問題を複眼的にとらえ、保育の多様な展開に対応できることを目指す。	1後	32		○							
○			健康	「子どもの健康」や「子どもの運動遊び」を様々な社会的要因との関係から分析しながら、子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それらにかかわる環境について理解を深め、子どもの健康に必要な指導・援助の技術・技能を獲得する。	1前	32		○							
○			人間関係	子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。子どもが園生活を通じて、自分が周囲の人々に温かく見守られているという安心感から生まれる信頼感と、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる「生きる力」について学習する。	1前	32		○							
○			環境	子どもにとっての環境とは、物的環境・人間環境・自然環境などさまざまな環境が相互して育ちに関わっている。保育者と子どもが基本的に安全で心地よく生活する条件を具体的に保育施設の構造・人間関係をもとに考察し、より良い子どもの遊びの空間を創造するための理論・技術を備えた保育士の育成を目的とする。	1後	32		○							
○			言葉	子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的な学習をする。	2前	16		○							
○			表現Ⅰ	幼児期に豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにするねらいのもと、幼児の心身の発達を促し、リズム感をつけるとともに、体をとおしてた動きで様々な表現ができるよう、その方法と技術を身につける。	1後	32		○							
○			乳児保育	乳児保育の理念と歴史的返遷及び役割等について学び、保育所や乳児院等における乳幼児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満時の発育・発達について学び、健やかな成長を支えるための生活と遊び。	2後	64		○			○				
○			障がい児保育	障がい児保育を支える理念や歴史的返遷について学び、障害児とその保育内容について理解する。そして様々な障害について理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学び、障害のある子どもの保育計画を作成し、個別支援及び、障害のある子どものかかわりの中で保育実践について理解する。	2前	32		○			○				

○			社会的養護内容	社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についてや、施設養護及び他の社会的養護を学ぶ。これらを基本として個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。また、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法の技術について理解し、福祉についての理解や認識を深める。	2前	32		○							
○			保育相談支援	保育相談支援の意義と原則について学び、保護者支援の基本を理解する。これらを基本に保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。また、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。	2後	32		○							
○			音楽Ⅰ・Ⅱ	音楽表現に関する知識や技術を学ぶ。それには子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術を身につける。具体的にはバイエルを中心としたピアノの基礎技術の習得とコールユーブンゲンを中心とした音楽の技術を習得する。	12通	128			○		○				
○			図画工作Ⅰ・Ⅱ	自然やまわりの身近な環境とかかわりあって、自然物を使って自由な発想で造形活動を楽しめる感性を育てる。また、粘土や紙、砂など可塑性の高い素材を使って表現することを学ぶ。	12通	128			○		○				
○			幼児体育	「体育」の意義と保育の中での位置づけを学ぶ。また、子どもの発達に応じた体育活動・教材・教具の内容を知り、こどもを主体にした「みんながうまくなる」体育の指導・援助を、保育の場面を想定して実技中心に学ぶ。	2前	32			○						
○			保育実習Ⅰ・Ⅱ	種々の児童福祉施設での現場体験を通して、既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを具体的・総合的に実践する応用力を身につけることを目的とする。併せて、学校での今後の学習・研究課題を探求する。	12通	270				○		○	○		○
○			保育実習事前事後指導Ⅰ・Ⅱ	実りある保育実習・教育実習にするために、実習に向けての事前学習をし、保育の目的・内容・方法・心構えなどを学び、実習課題を明確化させる。また、事後学習において実習総括、評価、反省を行い、新たな学習目標を明確化させる。	12通	128			○		○				
○			保育実践演習	保育現場を知り実習前と後で振り返りをし、履修カルテを用いてスキル上げを図る。	2前	32			○		○				
	○		表現Ⅱ	「こどもとリズム表現Ⅰ」での学びを基本に、さらに豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることをねらいとする。具体的にはピアノなどの楽器やこどもの歌などでの表現や、季節の変化にともなう自然現象を感じての身体表現などを行い、その中で自己表現をするの楽しさを身につける。	1後	16		○							
	○		表現Ⅲ	「こどもと造形表現Ⅰ」での学びを踏まえて、さらに造形表現の技術を高めていく。可塑性の高い教材を使っての自由な発想で造形活動を楽しめる感性を育てる。また、自然の中で自然物を使っての造形表現についても学ぶ。そのような経験を経て伝統的な絵画や造形物も学び、総合的な芸術的感性の育成する。	1前	16		○							

	○		言葉Ⅱ	子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的に学ぶ。	2前	16		○			○				
	○		音楽理論	日常生活のすべてが音楽教育の場であるととらえ、豊かな音楽の楽しみがある生活を営むことの大切さを知る。また、音楽の基本的知識を習得する。	1後	32		○			○				
	○		言語表現	こどもの発達段階にあった絵本や紙芝居などを提供するための知識、読み聞かせの技術について学ぶ。また、こどもが児童文化財に親しむために必要な、言語環境の整備の方法について理解し、遊びを通してこどもが積極的に児童文化財を経験できる方法について理解する。	1前	32		○							
○			教育実習	幼稚園における教育実践について専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。	2通	180				○		○	○		○
○			教育方法論	教育の方法に関する理論的知識を習得する。乳幼児期の教育の方法に関する基本原理を理解し説明できる。これらを踏まえ、保育現場における実践を構想する。	1後	32		○			○				
○			教育相談	「いじめ」「不登校」など子ども達の「こころ」をめぐる多様な問題や、児童虐待など親・養育者をめぐる問題が社会的課題となっている。そこで、子ども達の周りにいる大人達の役割や対応はどうあるべきかを学んでいく。	2前	32		○			○				
合計				46科目	2146単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てＣ以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前・後期
	１学期の授業期間	15週

授業科目等の概要

（工業専門課程モバイルアプリクリエイター学科モバイルアプリクリエイターコース）平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Javaプログラミング	Ｊａｖａ言語の基礎を学び、Javaプログラミング検定合格を目指す。	1・2通	408			○		○		○		
○			Android開発	モバイル用に最適化したプログラミング技術でAndroidアプリを作成します。	1・2通	340			○		○		○		○
○			Linux実習	Linuxのコンピュータを実際に操作して操作方法を学ぶ。	1・2通	272			○		○		○		
○			Webページ作成技術	利用者に分かりやすく機能的で美しいWebページの作成方法を学ぶ。	1通	68			○		○		○		
○			センサ制御技術	Androidに備わっているセンサの検知技術、活かし方について学ぶ。	1通	136			○		○		○		
○			ゲーム制作実習	アプリ制作で学んだ知識や技術を使って、ゲームアプリを制作する。	2通	136			○		○		○		
○			就職実務	ビジネスマナーやコミュニケーションなど、活躍するための知識を学ぶ。	1通	136					○		○		
○			卒業制作	2年間で学んだ知識や技術にセンスを加え集大成となるアプリを制作する。	2通	204					○		○		
	○		モバイルシステム概論	モバイルでの情報処理活用に必要な知識を基礎から学ぶ。	1通	68		○			○		○		
合計				9科目	1768単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てＣ以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前後期
	１学期の授業期間	17週

授業科目等の概要

（工業専門課程モバイルアプリクリエイター学科ICTクラウドサービスエンジニアコース）平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Javaプログラミング	Ｊａｖａ言語の基礎を学び、Javaプログラミング検定合格を目指す。	1・2通	408			○		○		○		
○			Android開発	モバイル用に最適化したプログラミング技術でAndroidアプリを作成します。	1・2通	340			○		○		○		○
○			Linux実習	Linuxのコンピュータを実際に操作して操作方法を学ぶ。	1・2通	272			○		○		○		
○			Webページ作成技術	利用者に分かりやすく機能的で美しいWebページの作成方法を学ぶ。	1通	68			○		○		○		
○			センサ制御技術	Androidに備わっているセンサの検知技術、活かし方について学ぶ。	1通	136			○		○		○		
○			ゲーム制作実習	アプリ制作で学んだ知識や技術を使って、ゲームアプリを制作する。	2通	136			○		○		○		
○			就職実務	ビジネスマナーやコミュニケーションなど、活躍するための知識を学ぶ。	1通	136					○		○		
○			卒業制作	2年間で学んだ知識や技術にセンスを加え集大成となるアプリを制作する。	2通	204					○		○		
	○		ICTシステム概論	ICTに必要な知識を基礎から学ぶ。	1通	68		○			○		○		
合計				9科目	1768単位時間（　　単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①基準検定取得　②科目ごとの総合評価が全てＣ以上 ③年次出席率90%以上、科目出課率70%以上、総出課率80%以上　④学費及び補助活動費が納入済	１学年の学期区分	前後期
	１学期の授業期間	17週

７．教職員名及び教職員数

校長	１名	大森　義紀
副校長	１名	石川　昌央
教務部長	１名	上野　照正
教務次長	２名	髙橋　重吉
		金井　孝明

デジタルクリエイター学科	専任教員	２名
	非常勤講師	８名
モバイルアプリクリエイター学科	専任教員	２名
情報処理学科	専任教員	３名
トラベルホテル学科	専任教員	２名
	非常勤講師	４名
介護福祉学科	専任教員	４名
	非常勤講師	１１名
こども学科	専任教員	５名
	非常勤講師	１５名
こども保育学科	専任教員	５名
	非常勤講師	１５名

８．キャリア教育・実践的職業教育

（１）キャリア教育への取組状況

１）年金セミナーの開催

２）租税教室の実施

３）ボランティア活動への積極的参加

（ねんりんぴっくボランティア・宇都宮城址祭りボランティア・雪合戦ボランティア等）

４）地域清掃活動の実施

（２）実習・実技等の取組状況

（デジタルクリエイター学科）

授業科目名	ドローイング	授業時数又は単位数	204
実施期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日		
実習・演習等の目的及び概要	デッサンや基礎的なデザイン課題を行い、業界で即戦力となりえる基礎力を身に着ける。また、業界の知識やモラルなどを吸収し、社会人としての能力を身に着ける。		
企業等との連携の基本方針	基礎のデッサンや基本的なデザイン課題こなすことで企業が求める水準となる実習を行う。現役で活躍するデザイナーが直接指導を行うことで、業界の制作物の基準を知る。課題を提出し、評価を行う。		
企業等との連携内容	デッサンやデザインに関して、本校の担当教員と企業・業界団体等のデザイナーが実習前に事前の打ち合わせを行い、実習内容、学生の学習成果の達成度指標等について定める。実習終了時の学修成果の評価に関しては、企業等のデザイナーが成績評価・単位認定を行う。		
学修成果の評価方法	実習を通しての課題評価、および出席率、授業態度を含めて総合的に評価する。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
1週～7週	デッサン	校内
8週	淡彩	校内
9週	クロッキー	校内
10週～12週	テクスチャー	校内
14週	Photoshopでリンゴを描く	校内
15週～19週	星座のイラストレーション	校内
20週～25週	雑誌表紙のイラストレーション	校内
26週～34週	イラストマップ	校内
連携する企業等	株式会社IT経営センターとちぎ	

（デジタルクリエイター学科）

授業科目名	ベーシックデザイン	授業時数又は単位数	204
実施期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日		
実習・演習等の目的及び概要	デッサンや基礎的なデザイン課題を行い、業界で即戦力となりえる基礎力を身に着ける。また、業界の知識やモラルなどを吸収し、社会人としての能力を身に着ける。		
企業等との連携の基本方針	基礎のデッサンや基本的なデザイン課題こなすことで企業が求める水準となる実習を行う。現役で活躍するデザイナーが直接指導を行うことで、業界の制作物の基準を知る。課題を提出し、評価を行う。		
企業等との連携内容	デッサンやデザインに関して、本校の担当教員と企業・業界団体等のデザイナーが実習前に事前の打ち合わせを行い、実習内容、学生の学習成果の達成度指標等について定める。実習終了時の学修成果の評価に関しては、企業等のデザイナーが成績評価・単位認定を行う。		
学修成果の評価方法	実習を通しての課題評価、および出席率、授業態度を含めて総合的に評価する。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
1～8週	色彩構成1「静寂と喧噪」	校内
9週～14週	色彩構成2「自然物を使った色彩構成」	校内
15週～17週	色彩構成3「等色相面」	校内
23週～30週	色彩構成4「秋」	校内
31週～34週	色彩構成5「speedyポスター作成」、Illustratorでデータ化	校内
連携する企業等	株式会社IT経営センターとちぎ	

（情報処理学科）

授業科目名	Javaプログラミング	授業時数又は単位数	100時間
実施期間	平成29年5月26日～平成29年7月15日 第１週　週4時間　第2週～第9週　週12時間		
実習・演習等の目的及び概要	Java言語の主に実習を通じ、プログラミングに慣れるとともに、情報処理業界で必要とされるJava言語特有の技術を学ぶ。 企業と連携することで、単元項目の取捨選択や重点を設定できるため、より実践的な能力を育成でき、企業担当者の指示の下、本校教職員が実習を行う。		
企業等との連携の基本方針	Java言語に関する実践的な授業を行うため、企業・業界団体等から当該企業に所属する技術者より最低限必要な技術や最新の動向を打ち合わせした本校教職員が実習を行う。そのため、校内の実習設備等を活用した指導の協力を得られる企業・業界団体を選定している。また、公平な学習成果の評価を行うため、また業界が渇望する資格の一つ、業界のデファクトスタンダードであるオラクル認定資格Javaプログラマの取		
企業等との連携内容	Java言語に関して、本校の担当教員と企業・業界団体等の技術者が実習前に事前の打ち合わせを行い、実習内容、学生の学習成果の達成度指標等について定める。実習期間中は、担当教員が技術的な指導をしつつ、企業等の技術者と連携し差異や隔たりがないかチェックする体制をとる。 実習終了時の学修成果の評価に関しては、企業等の技術者と連携を取り、担当教員が成績評価・単位認定を行う。		
学修成果の評価方法	学習、実習を通して学んだ知識を評価するため、オラクル認定資格Javaプログラマ Bronzeの資格取得を目指し、合否及び取得点数により知識習得状況を、それに出席率・授業態度を含め、総合的に評価する。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
1週	企業から得た知識を元に、Java言語の業界における位置、Javaにより開発されたシステムの運用などを学生に学ばせる。	校内
2週～5週	Java言語基礎知識講義、問題演習 「オラクル認定教科書　JavaプログラマBronze」を使用し、Java言語の基礎を講義する。講義内容に基づきプログラミング実習を通し知識を定着させる。	校内
6週～9週	学習の成果を検証するため、オラクル認定資格JavaプログラマBronzeを受験するにあたり、問題演習を通じて合格を目指す。	校内
連携する企業等	株式会社　ティビィシィ・スキヤツト	

（モバイルアプリクリエイター学科）

授業科目名	Android開発	授業時数又は単位数	1年次136時間
実施期間	平成29年　4月　　1日　～　平成30年　3月　31日		
実習・演習等の目的及び概要	Android言語学習をするにあたり、情報系企業が、研修用利用している会社がある。今回その会社が開発・編集し、研修用のテキストとして利用している者を教科書として採用し、学習することで実践的な技術を学ぶ。		
企業等との連携の基本方針	シラバス等の指示を仰ぎ、研修と同じスケジューリングで学ぶ。		
企業等との連携内容	企業が研修用に開発・編集したテキストを使用し、企業のアドバイスに従い授業展開する。		
学修成果の評価方法	課題として出題し、その提出内容を総合的に評価する。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
第1週	実習環境の設定	校内
第2週	Android端末に触れ、タブレットの特徴を理解する	校内
第3週～第10週	AndroidStudioの基礎をサンプルを使い学習する	校内
第11週～第32週	AndroidStudioの課題をテキストを使い作成する	校内
第33週～第34週	アプリの公開に向けての各種設定	校内
連携する企業等	株式会社　アンサーリードシステム	

企業等と連携した実習・演習等

（商業実務専門課程トラベルホテル学科　トラベルサービスコース）

授業科目名	インターンシップ	授業時数又は単位数	60
実施期間	1年次　後期		
実習・演習等の目的及び概要	卒業後に、社会人として活躍し、会社の核になる人材育成のため、仕事に対する心構えや考え方を体感し、お客様を喜ばせることの大切さと大変さの両方を実感する。さらに、体調管理・時間管理に関しても学ぶ。		
企業等との連携の基本方針	実際の職場にて、就業体験し、より実践的な知識を習得する場を作る。		
企業等との連携内容	連携企業の教授により実際に現場で必要な知識の醸成を図る。業界で即戦力となり得る実践的な技能を培う。学修成果の評価は、覚書にて、業務内容・勤務時間等の勤務時間を確認し、実施日誌・報告書により、具体的な実習内容を記録、報告（振り返り）にて共有。最終評価として、実習企業より学生ごとの連絡表（評価表）を記入してもらう。		
学修成果の評価方法	インターンシップ先の責任者より、総評をいただく中で、知識の習得度や実習態度において、A・B・Cの3段階で評価する。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
10月中旬	オリエンテーション。（業務内容や勤務時間など）	学外 栃木県内
10月下旬	現場にて、社会人の基本となるマナー（挨拶・自己紹介・返事・掃除など）を学ぶ。	学外 栃木県内
11月初旬	社内の部署をローテーションし、バックヤードの仕事の大切さを学ぶ。	学外 栃木県内
11月上旬	実際のお客様との接遇・サービスを通して、仕事の責任感や達成感を学ぶ。	学外 栃木県内
11月中旬	お客様との接遇に慣れ、先回りや予測をしながら、仕事の質を上げ、お客様の予測を超えるサービスを目指していく。	学外 栃木県内
連携する企業等	株式会社JTB関東法人営業宇都宮支店、株式会社日本旅行宇都宮支店 近畿日本ツーリスト株式会社宇都宮支店、株式会社国際ツーリストサロン	

企業等と連携した実習・演習等

（商業実務専門課程トラベルホテル学科　トラベルサービスコース）

授業科目名	インターンシップ	授業時数又は単位数	60
実施期間	1年次　後期		
実習・演習等の目的及び概要	卒業後に、社会人として活躍し、会社の核になる人材育成のため、仕事に対する心構えや考え方を体感し、お客様を喜ばせることの大切さと大変さの両方を実感する。さらに、体調管理・時間管理に関しても学ぶ。		
企業等との連携の基本方針	実際の職場にて、就業体験し、より実践的な知識を習得する場を作る。		
企業等との連携内容	連携企業の教授により実際に現場で必要な知識の醸成を図る。業界で即戦力となり得る実践的な技能を培う。学修成果の評価は、覚書にて、業務内容・勤務時間等の勤務時間を確認し、実施日誌・報告書により、具体的な実習内容を記録、報告（振り返り）にて共有。最終評価として、実習企業より学生ごとの連絡表（評価表）を記入してもらう。		
学修成果の評価方法	インターンシップ先の責任者より、総評をいただく中で、知識の習得度や実習態度において、A・B・Cの３段階で評価する。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
10月中旬	オリエンテーション。（業務内容や勤務時間など）	学外 栃木県内
10月下旬	現場にて、社会人の基本となるマナー（挨拶・自己紹介・返事・掃除など）を学ぶ。	学外 栃木県内
11月初旬	社内の部署をローテーションし、バックヤードの仕事の大切さを学ぶ。	学外 栃木県内
11月上旬	実際のお客様との接遇・サービスを通して、仕事の責任感や達成感を学ぶ。	学外 栃木県内
11月中旬	お客様との接遇に慣れ、先回りや予測をしながら、仕事の質を上げ、お客様の予測を超えるサービスを目指していく。	学外 栃木県内
連携する企業等	株式会社ナクアホテル＆リゾーツエピナール那須	

企業等と連携した実習・演習等

（教育・社会福祉専門課程　介護福祉学科）

授業科目名	介護実習Ⅰ	授業時数又は単位数	80時間
実施期間	平成29年5月29日～平成29年6月9日		
実習・演習等の目的及び概要	学内で学んだ学習を基礎とし、介護の実践を学ぶ。 学内の授業に合わせながら段階ごとの目標を設定し、目標に応じた体験をする。様々な経験を通し介護福祉士としての完成を磨き介護力を高めていくようにする。		
企業等との連携の基本方針	厚生労働省の指定カリキュラムに基づき、介護施設での現場実習を行う。学内で学んだ基礎的な専門知識と技術を確認しつつ現場の実習担当者職員の指示、指導を受けながら基礎的知識、技術の確立と応用の技術の習得の場とする。在学期間中に複数回、また複数の現場実習を体験することで現状に適応できる人材育成を目指す。		
企業等との連携内容	年度当初に各施設の実習担当者とマニュアルに基づき概要の確認を行う。実習の直前には実習学生に対して直接、オリエンテーションを実施してもらう。また、実習中には定期的に教員が巡回指導を行い。学生とのカンファレンス実習担当者に状況を聞き、学生指導を行う。		
学修成果の評価方法	評価については学生に日々の様子を記録させ、担当者に評価を受ける。 10項目について各4段階（A～D）にて評価する。		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
5/28～6/8	介護実習Ⅰ	医療法人社団友志会
5/28～6/8	介護実習Ⅰ	社会福祉法人光誠会
5/28～6/8	介護実習Ⅰ	社会福祉法人久寿福祉会
5/28～6/8	介護実習Ⅰ	医療法人光風会
5/28～6/8	介護実習Ⅰ	医療法人社団一心会
連携する企業等		

企業等と連携した実習・演習等

（教育・福祉専門課程こども学科）

授業科目名	教育実習	授業時数又は単位数	80時間
実施期間	平成29年10月16日～平成29年10月26日		
実習・演習等の目的及び概要	幼稚園教諭に必要な知識や技術の習得。 職場において即戦力になりえる力と社会人としてのマナーを身につける。		
企業等との連携の基本方針	幼稚園教諭としての知識や技術、さらに職場への適応力を身につけさせる。		
企業等との連携内容	実習の事前指導を実施し、それに基づき実習では、子どもとの関わり、 ピアノによる弾き歌い、指導案作成等を学び日誌の作成により 実習先の指導を受ける。		
学修成果の評価方法	A・B・C・D・Eの5段階評価 A～Dは合格　Eは不合格		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
10/16～10/26	教育実習	むつみ愛泉こども園
10/16～10/26	教育実習	上河内幼稚園
10/16～10/26	教育実習	黒磯幼稚園
10/16～10/26	教育実習	認定みどりこども園
10/16～10/26	教育実習	矢板認定こども園
連携する企業等		

企業等と連携した実習・演習等

（教育・社会福祉専門課程　こども保育学科）

授業科目名	教育実習	授業時数又は単位数	80時間
実施期間	平成29年10月16日～平成29年10月26日		
実習・演習等の目的及び概要	幼稚園教諭に必要な知識や技術の習得。 職場において即戦力になりえる力と社会人としてのマナーを身につける。		
企業等との連携の基本方針	幼稚園教諭としての知識や技術、さらに職場への適応力を身につけさせる。		
企業等との連携内容	実習の事前指導を実施し、それに基づき実習では、子どもとの関わり、 ピアノによる弾き歌い、指導案作成等を学び日誌の作成により 実習先の指導を受ける。		
学修成果の評価方法	A・B・C・D・Eの5段階評価 A～Dは合格　Eは不合格		

実習・演習等計画

日程	実習・演習等の内容	実施場所
10/16～10/26	教育実習	むつみ愛泉こども園
10/16～10/26	教育実習	上河内幼稚園
10/16～10/26	教育実習	黒磯幼稚園
10/16～10/26	教育実習	認定みどりこども園
10/16～10/26	教育実習	矢板認定こども園
連携する企業等		

９．学生の生活支援

（１）学生支援の組織

クラス担任制にて授業運営。個人面談、保護者面談等で学生の把握、指導を行っています。また、学習指導部、生活指導部、就職指導部を設け、月１回以上のペースで活動し、学校の質の向上、退学防止、就職率の向上に努めています。

（２）学生支援への取り組み状況

１）進路・就職に関する支援体制について

・就職指導部と担任によるサポート体制
・インターンシップを実施
・就職研修を実施（面接指導、就職の心構え、履歴書添削）
・卒業前研修を実施（就職の心構え、礼法指導、グループ研修）

２）学生相談に対する体制について

・担任による面談を実施
・夏休みに３者面談を実施
・必要に応じて校長、副校長との面談

３）学生に対する経済的な支援体制について

・公的奨学金を利用可能
・状況により学費の分納、延納を認める（条件あり）

４）学生の健康管理について

・毎年定期健康診断を実施

５）保護者との適切な連携について

・夏休み３者面談、学生状況により保護者面談を実施

６）アルバイトの斡旋について

・アルバイト求人を公開

７）アパートの斡旋について

・提携不動産業者によるアパートの斡旋

８）卒業生への支援体制について

・卒業後就職サポートあり

９）高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みについて

・高校生職場体験の受け入れ
・バス見学会の実施
・キャリア教育事業支援

（３）就職支援等への取組支援

１）「就職実務」

授業に組み込み、就職についての心構え・就職活動について・履歴書エントリーシートの記入方法・面接指導・礼法訓練・SPI 対策などを学習し、就職活動の支援を行う。

２）就職模擬面接

就職活動が本格化する前に校内で就職模擬面接を実施。服装・立ち居振る舞い・言葉遣い等を指導。

３）就職指導室の設置

就職活動相談や求人票や過去の試験状況などが閲覧できる就職指導室を設置。

４）専任の就職相談員の配置

就職室に専任の就職相談員を配置。就職の斡旋や相談などを行う。

５）外部講師を招聘し、就職研修の実施

就職専門の外部講師を招聘し、各学科に合わせた就職研修を行う。

６）卒業前研修の実施

一泊二日でビジネスマナー、グループエンカウンターを行い、社会人としての心構え等身につけさせる。

７）卒業生の就職の斡旋

再就職を希望する卒業生は就職部がバックアップし、 無料相談を受けることができる。

（４）様々な教育活動・教育環境

【学校行事】

	学校行事
4 月	入学式・オリエンテーション・健康診断
5 月	避難訓練・スポーツフェスティバル
6 月	
7 月	学校祭・夏休み
8 月	サマーフェスティバル
9 月	国内研修旅行・前期期末試験・秋休み
10 月	後期開始
11 月	就職研修
12 月	海外研修旅行・冬休み
1 月	海外研修旅行・学科校外研修・卒業前研修
2 月	期末試験・春休み
3 月	卒業式

【学科行事】

4 月	
5 月	校外研修（デジタルクリエイター学科）
6 月	公務員受験対策合宿（公務員法律学科）
7 月	デジハリ講座（デジタルクリエイター学科）
8 月	国家試験対策合宿（情報処理学科）
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	海外研修旅行（トラベルホテル学科）
1 月	校外研修（情報処理学科） 海外研修旅行（公務員法律学科） スポーツ大会（デジタルクリエイター学科・情報処理学科・モバイルアプリクリエイター学科） ミュージカル鑑賞会（公務員法律学科）
2 月	卒業進級作品展示会（デジタルクリエイター学科） ゴルフ大会（公務員法律学科）
3 月	

１０．学生納付金・就学支援

（１）学生納付金の取り扱い

■入学金　全学科　100,000 円

※合格発表日の約１週間後までに金融機関から振り込みにて納入

■授業料・施設設備費（年額）

学科・コース名	授業料	施設設備費	合計
デジタルクリエイター学科	600,000 円	220,000 円	820,000 円
モバイルアプリクリエイター学科	600,000 円	220,000 円	820,000 円
情報処理学科	600,000 円	220,000 円	820,000 円
トラベルホテル学科	600,000 円	170,000 円	770,000 円
公務員法律学科	600,000 円	190,000 円	790,000 円

※納入後、やむを得ない理由により入学を辞退する場合には３月末日までにお知らせください。

入学金を除いた学費については返還いたします。

※学費の納入は１年分一括納入が原則ですが、１年分を２分割にて納入することもできます。

※１回目学費３月２０日まで、２回目学費８月２０日までに納入（１年次、２年次、３年次）

■その他納入金

１）補助活動費（年額）

150,000 円～390,000 円

●教科書代、教材費、行事費、実習費および学生共済等の諸経費

●個人により異なる検定等の費用については別途納入となります

●学科またはコースにより金額が異なります

２）海外研修旅行積立金

●入学年次の５月から２年次の１０月まで毎月 15,000 円を口座振替にて積立

●旅行先については設定のコースから選択していただきます

（平成２９年度実績：ハワイ・上海・国内（情勢不安のためグアムから変更））

（２）修学支援

１）家族割引制度

２）家賃支援制度

３）自動車通学駐車料金補助制度

４）アパート紹介制度

５）表彰制度

６）ＴＢＣ奨学金

１１．財務状況

貸　借　対　照　表

平成30年3月31日

学校法人ティビィシィ学院　　（単位:円）

科　　目	決　算　額
資 産 の 部	
固定資産	
有形固定資産	7,512,373,916
その他の固定資産	371,041,885
流動資産	3,253,510,116
資産の部合計	11,136,925,917
負 債 の 部	
固定負債	594,148,718
流動負債	1,628,367,312
負債の部合計	2,222,516,030
純 資 産 の 部	
株主資本	
資本金	510,000,000
繰越利益剰余金	8,404,409,887
純資産の部合計	8,914,409,887
負債及び純資産の部合計	11,136,925,917

１２．学校評価

自己評価・学校関係者評価の結果

下記のアドレスにて情報公開

http://www.tbc-u.ac.jp/information.html

学校関係者評価委員

役職	名　前	所　　属	種別
委員	真尾　和明	株式会社マーケットネットワーク　専務取締役	卒業生
委員	中島　宏	栃木県議会議員	卒業生
委員	篠原　洋子	保護者　こども保育学科	保護者
委員	磯　勝夫	寺町自治会　会長	町内会
委員	山田　義治	一般社団法人栃木県情報サービス産業協会　理事	業界関係者
委員	神山　剛宏	株式会社ティビィシィ・スキヤツト　部長代理	業界関係者
委員	村上　敏成	ネットワーク協議会　栃木県支部代表	業界関係者
委員	富田　留美子	株式会社IT経営センターとちぎ　主任デザイナー	業界関係者
委員	髙橋　英基	栃木県よろず支援拠点　コーディネーター	業界関係者
委員	長洲　雅彦	株式会社アンサリードシステム　代表取締役	業界関係者
委員	手塚　忠之	宇都宮商工会議所　中小企業相談所長	業界関係者
委員	戸川　敏英	株式会社ティビィシィ・スキヤツト　課長	業界関係者
委員	小田島　建夫	栃木県防衛協会　副会長	業界関係者
委員	森　雄二	北関東綜合警備保障株式会社　人事課長	業界関係者
委員	関口　淳	宇都宮観光コンベンション協会　事務局長	業界関係者
委員	吉川　成彰	株式会社国際ツーリストサロン　代表取締役	業界関係者
委員長	大森　義紀	国際情報ビジネス専門学校　校長	学校関係者
委員	上野　照正	国際情報ビジネス専門学校　教務部長	学校関係者
委員	金井　孝明	国際情報ビジネス専門学校　教務次長	学校関係者
委員	中山　登志彦	国際情報ビジネス専門学校　教務次長	学校関係者
委員	郡司　理	国際情報ビジネス専門学校　教務科長	学校関係者
委員	山口　美紀子	国際情報ビジネス専門学校　情報処理学科責任者	学校関係者
委員	金田　典幸	国際情報ビジネス専門学校　モバイルアプリクリエーター学科責任者	学校関係者
委員	鈴木　仁美	国際情報ビジネス専門学校　デジタルクリエイター学科責任者	学校関係者
委員	渡辺　咲子	国際情報ビジネス専門学校　総合ビジネス学科責任者	学校関係者
委員	加藤　綾恵	国際情報ビジネス専門学校　トラベルホテル学科責任者	学校関係者
委員	金子　洋久	国際情報ビジネス専門学校　公務員法律学科責任者	学校関係者
委員	池田　早織	国際情報ビジネス専門学校　グローバル英語学科責任者	学校関係者
委員	丸山　亜紀子	国際介護福祉専門学校　介護福祉学科責任者	学校関係者
委員	須永　みのり	国際介護福祉専門学校　医療事務学科責任者	学校関係者
委員	菊池　玲子	国際介護福祉専門学校　こども学科責任者	学校関係者

※任期　平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

１３．国際連携の状況

留学生入学規定（募集要項）

＜出願資格＞
①外国において通常の課程による１２年間以上の学校教育を終了した方
②日本語教育施設（日本語教育振興協会による認定校）で６ヵ月以上の日本語教育を受けた方
③日本語の基礎的な能力（日本語能力試験２級、または３級程度）を習得している方
④毎日登校し、まじめに学習する方、また日本の法律及び本校の学則を守れる方

＜出願書類＞
（当学院日本語学科卒業生）
①入学願書（当校所定のもの）
②誓約書

（当学院日本語学科卒業生以外の方）
①　入学願書（当校所定のもの）
②　最終出身学校の卒業証明書、及び成績証明書（その他学歴が証明できる書類でも可）
③日本語教育施設の卒業証明書または卒業見込み証明書（コピー不可）
④日本語教育施設の出席証明書及び成績証明書（コピー不可）
⑤日本語能力試験合格者は認定書のコピー
⑥パスポート及び外国人登録証（コピー後即返却）
⑦誓約書
⑧入学願書副申書

＜入学方法＞
●願書受付期間　　平成３０年１０月１日（月）～平成３１年４月１０日（水）
●選考日　　入学願書提出後、随時
●選考方法
①書類審査
②面接
③日本語能力テスト　６０分
・筆記　　４５分（文章・語彙・読解・文法）
・ヒアリング　１５分
④作文試験　　１０分
●選考料　　２０，０００円（ただし、学校長による推薦の場合は無料）

＜入学金・学費・補助活動費＞
●入　学　金　　全コース　１００，０００円
＊TBC 学院日本語学科卒業生は免除
●学　　費　　学費は授業料年額（６０万～７０万円）と施設設備費を合わせたものです。
※留学生（留学 VISA の方）は授業料の半額（３０～３５万円）が免除。ただ　　し期日までに一括納入ができない場合は、免除の対象外となります。
●補助活動費　　教科書、教材費、諸費用のことです。昨年実績をもとに１年分を概算で仮払いしていただき、平成３１年　５月３０日（木）までに精算します。

国際情報ビジネス専門学校学則

第　１　章　総則

第１条　本校は、学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第１２４条及び第１２５条の規定に基づき、高等学校教育の基礎の上に工業関係、商業実務関係及び文化教養関係の知識と技能を授ける専門課程を設置し、人格の陶冶をはかり、社会に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

第２条　本校は国際情報ビジネス専門学校という。

第３条　本校の位置を宇都宮市大通り１丁目２番５号に置く。

第　２　章　課程及び学科、修業年限、定員並びに休業日

第４条　　本校の課程、学科及び修業年限並びに定員は次の通りとする。

課　程　名	学　科　名	コ　ー　ス　名	修業年限	男女別	入学定員	総定員
工業専門課程	情報処理学科	アルティメット（高度専門士）	４年	男・女	１０名	４０名
		アドバンスト	３年	男・女	１０名	３０名
		システム開発	２年	男・女	２０名	４０名
		システム運用				
		ネットワークセキュリティ				
	モバイルアプリクエイリター学科	モバイルアプリクリエイター	２年	男・女	２０名	４０名
		ＩＣＴクラウドサービスエンジニア				
商業実務専門課程	総合ビジネス学科	ＩＴマスター	２年	男・女	２０名	４０名
		経理事務				
		販売サービス				
		オフィスビジネス	１年	男・女	１０名	１０名
	トラベルホテル学科	トラベルサービス	２年	男・女	２０名	４０名
		ホテルサービス				
	グローバル英語学科	英語速習（１年）	１年	男・女	１０名	１０名
		海外留学	２年	男・女	２０名	４０名
	国際ITビジネス学科	１．５年制	１．５年	男・女	１１５名	２３０名
		２年制	２年	男・女		
		４年制	４年	男・女	５名	２０名
文化教養専門課程	デジタルクリエイター学科	CG･ｹﾞｰﾑ･ｱﾆﾒ･映像	２年	男・女	２０名	４０名
		イラスト・まんが				
	公務員法律学科	行政事務職	２年	男・女	２０名	４０名
		警察官・消防官				
		郵政・鉄道				
		一般職・上級	３年	男・女	１０名	３０名
		専門職・上級	４年	男・女	５名	２０名
	公務員（１年）学科	公務員事務職	１年	男・女	２０名	２０名
		警察・消防・自衛官				
	日本語学科	進学１．５年	１．５年	男・女	４０名	８０名
		進学２年	２年	男・女		
			合　計		３７５名	７７０名

2. 本校の別科は次のとおりとする。

科　　名	修　業　期　間	総　　定　　員	備　考
簿　　記　　講　　座	５　ケ　月	２０　名	昼間または夜間
税　　理　　士　　講　　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
公　　務　　員　　講　　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
コ　ン　ピ　ュ　ー　タ　講　座	６　ケ　月	２０　名	昼間または夜間
調　　剤　　事　　務　　講　　座	３　ケ　月	２０　名	昼間または夜間
介　　護　　事　　務　　講　　座	３　ケ　月	２０　名	昼間または夜間
日　　本　　語　　教　　育　　講　　座	１　ケ　月	２０　名	昼間または夜間
日　本　語　教　師　養　成　講　座	１　年	１０　名	昼間または夜間
社　会　保　険　労　務　士　講　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
宅　地　建　物　取　引　主　任　者　講　座	６　ケ　月	２０　名	昼間または夜間
英　　会　　話　　講　　座	３　ケ　月	１０　名	昼間または夜間
韓　　国　　語　　講　　座	３　ケ　月	１０　名	昼間または夜間
中　　国　　語　　講　　座	３　ケ　月	１０　名	昼間または夜間
司　　法　　試　　験　　講　　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
司　　法　　書　　士　　講　　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
中　小　企　業　診　断　士　講　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
行　　政　　書　　士　　講　　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
ファイナンシャルプランナー講座	６　ケ　月	２０　名	昼間または夜間
証　券　ア　ナ　リ　ス　ト　講　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
証　　券　　外　　務　　員　　講　　座	３　ケ　月	２０　名	昼間または夜間
不　動　産　鑑　定　士　講　座	１　年	２０　名	昼間または夜間
グ　ロ　ー　バ　ル　ビ　ジ　ネ　ス　講　座	２　年	２０　名	昼間または夜間

第５条　本校の学年は、４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。
※1.5 年制学科は１０月１日に始まり、翌々３月３１日に終わる。

第６条　本校の学期は、次のとおりとする。
前　　期　　４月１日から　　９月３０日まで
後　　期　　１０月１日から　　３月３１日まで
※1.5 年制学科は１０月１日～３月３１日までを前期、４月１日～９月３０日までを中期、１０月１日～３月３１日までを後期とする。

第７条　本校の休業日は次のとおりとする。（別科を除く）

（１）土曜日・日曜日
（２）国民の祝日に関する法律で規定する日
（３）夏季休業　　７月第４週から８月第３週
（４）冬季休業　　１２月第４週から１月第１週
（５）春季休業　　２月第２週から４月第２週
（６）開校記念日　　５月　８日

第　３　章　　教育課程、授業時数及び教員組織

第８条　本校の教育課程及び授業時数は次のとおりとする。

デジタルクリエイター学科 CG・ゲーム・アニメ・映像コース/イラストまんがコース　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数			備考
				第一学年	第二学年	計	
文化教養専門課程	デジタルクリエイター学科	ドローイング	必須	102	102	204	
		ベーシックデザイン	必須	102	102	204	
		2DCG・ドロー	必須	51	51	102	
		2DCG・レタッチ	必須	51	51	102	
		色彩基礎	必須	153	102	255	
		HTML基礎	必須		51	51	
		エフェクト演習	必須		51	51	
		就職実務	必須	51	102	153	
		モーション	必須	102		102	
		デッサン	必須	102	0	102	
		課題研究	必須	60	60	120	
		撮影実習	必須		51	51	
		3DCG制作Ⅰ	選択	102		102	①
		映像編集Ⅰ	選択	102		102	①
		イラスト制作Ⅰ	選択	102		102	②
		漫画制作Ⅰ	選択	102		102	②
		3DCG制作Ⅱ	選択		102	102	①
		映像編集Ⅱ	選択		102	102	①
		イラスト制作Ⅱ	選択		102	102	②
		漫画制作Ⅱ	選択		102	102	②
計				978	927	1905	

① CG・ゲーム・アニメ・映像コース

② イラストまんがコース

情報処理学科　システム開発コース/システム運用コース/ネットワークセキュリティコース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必選の別	年次別授業時間数 第一学年	第二学年	計	備考
工業専門課程	情報処理学科	コンピュータ概論	必須	270	100	370	
		プログラミング基礎	必須	270	100	370	
		アルゴリズム入門	必須	270	100	370	
		ネットワーク概論	必須	176	100	276	
		就職実務	必須	34	34	68	
		検定対策	必須		256	256	
		コンピュータ言語実習	必須		120	120	
		ソフトウェア製作	必須		210	210	
計				1020	1020	2040	

① システム開発コース・・・・・・・・・・・・検定対策にてOracle認定JavaSEを受験
② システム運用コース・・・・・・・・・・・・検定対策にてLPIC Lv1を受験
③ ネットワークセキュリティコース・・・・検定対策にて. comMasterADVANCEを受験

情報処理学科 アドバンストコース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数 第一学年	第二学年	第三学年	計	備考
工業専門課程	情報処理学科	コンピュータ概論	必須	270	100		370	
		プログラミング基礎	必須	270	100		370	
		アルゴリズム入門	必須	270	100		370	
		ネットワーク概論	必須	176	100	196	472	
		就職実務	必須	34	34	34	102	
		検定対策	必須		256		256	
		コンピュータ言語実習	必須		120	200	320	
		ソフトウェア製作	必須		210		210	
		ネットワーク構築実習	必須			170	170	
		サーバ構築実習	必須			210	210	
		ソリューション研究	必須			210	210	
計				1020	1020	1020	3060	

情報処理学科 アルティメット（高度専門士）コース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必選の別	年次別授業時間数					備考
				第一学年	第二学年	第三学年	第四学年	計	
工業専門課程	情報処理学科	コンピュータ概論	必須	270	100			370	
		プログラミング基礎	必須	270	100			370	
		アルゴリズム入門	必須	270	100			370	
		ネットワーク概論	必須	176	100	196		472	
		就職実務	必須	34	34	34	34	136	
		検定対策	必須		256			256	
		コンピュータ言語実習	必須		120	200		320	
		ソフトウェア製作	必須		210			210	
		ネットワーク構築実習	必須			170	170	340	
		サーバ構築実習	必須			210	170	380	
		ソリューション研究	必須			210		210	
		セキュリティ構築実習	必須				170	170	
		RDB構築実習	必須				170	170	
		システムインテグレーション	必須				306	306	
計				1020	1020	1020	1020	4080	

モバイルアプリクリエイター学科 ﾓﾊﾞｲﾙｱﾌﾟﾘｸﾘｴｲﾀｰｺｰｽ/ITCｸﾗｳﾄﾞｻｰﾋﾞｽｴﾝｼﾞﾆｱｺｰｽ　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数			備考
				第一学年	第二学年	計	
工業専門課程	モバイルクリエイター学科	Java プログラミング	必須	272	136	408	
		Android開発	必須	136	204	340	
		Linux実習	必須	68	204	272	
		Webページ作成技術	必須	68		68	
		センサ制御技術	必須	136		136	
		ゲーム制作実習	必須		136	136	
		就職実務	必須	136		136	
		卒業制作	必須		204	204	
		モバイルシステム概論	必須	68		68	①
		ICTシステム概論	必須	68		68	②
計				884	884	1768	

① モバイルアプリクリエイターコース

② ICTクラウドサービスエンジニアコース

総合ビジネス学科 オフィスビジネスコース　　平成30年度入学生

課程等の名称	学科の名称	授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数 第一学年	年次別授業時間数 計	備考
商業実務専門課程	総合ビジネス学科	コンピュータ概論	必須	204	204	
		アプリケーション実習	必須	136	136	
		ビジネスマナー	必須	68	68	
		販売士Ⅰ	必須	136	136	
		商業簿記	必須	272	272	
		工業簿記	必須	68	68	
計				884	884	

総合ビジネス学科 ITマスターコース/経理事務コース/販売サービスコース　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数			備考
				第一学年	第二学年	計	
商業実務専門課程	総合ビジネス学科	コンピュータ概論	必須	204		204	
		アプリケーション実習	必須	136		136	
		ビジネスマナー	必須	68		68	
		販売士Ⅰ	必須	136		136	
		商業簿記	必須	272		272	
		工業簿記	必須	68		68	
		ビジネス実務	必須		272	272	
		プレゼンテーション	選択		136	136	①③
		上級ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ実習	選択		476	476	①
		会計学	選択		136	136	②
		簿記論	選択		136	136	②
		原価計算	選択		136	136	②
		税法	選択		136	136	②③
		コンピュータ会計	選択		68	68	②③
		販売士Ⅱ	選択		136	136	③
		サービス接遇	選択		136	136	③
計				884	884	1768	

① ITマスターコース

② 経理事務コース

③ 販売サービスコース

トラベルホテル学科　ﾄﾗﾍﾞﾙｻｰﾋﾞｽｺｰｽ/ﾎﾃﾙｻｰﾋﾞｽｺｰｽ　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数			備考
				第一学年	第二学年	計	
商業実務専門課程	トラベルホテル学科	旅行業法 旅行業約款・宿泊約款	必須	48		48	
		観光地理	必須	100	112	212	
		国内運賃料金	必須	48		48	
		国家試験対策	必須	120		120	
		英会話	必須	62	60	122	
		観光英語	必須	38	52	90	
		コンピュータ実習	必須	76	112	188	
		就職活動対策	必須	114	82	196	
		コミュニケーションスキル	必須		112	112	
		ビジネスマナー	必須	28	56	84	
		イベント企画	必須		112	112	
		観光実務実習	必須	40	80	120	
		インターンシップ	必須	80		80	
		総合国家試験対策	選択	120		120	①
		旅行業基礎	選択	28	52	80	①
		観光マネジメント	選択		60	60	①
		ブライダルプランナー検定対策	選択	120		120	②
		ホテルブライダル知識	選択	28	52	80	②
		料飲接遇サービス	選択		60	60	②
計				902	890	1792	

① トラベルサービスコース

② ホテルサービスコース

グローバル英語学科　英語速習1年コース

平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数		備考
				第一学年	計	
商業実務専門課程	グローバル英語学科	経営戦略と企業家精神	必須	120	120	
		ビジネス英語	必須	60	60	
		会計・財務	必須	60	60	
		国際理解・異文化コミュニケーション	必須	60	60	
		Integrated English	必須	240	240	
		Critical Reading	必須	120	120	
		Global English Listening	必須	120	120	
		MOS	必須	120	120	
計				900	900	

グローバル英語学科 海外留学コース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数			備考
				第一学年	第二学年	計	
商業実務専門課程	グローバル英語学科	経営戦略と企業家精神	必須	120		120	
		ビジネス英語	必須	60		60	
		会計・財務	必須	60		60	
		国際理解・異文化コミュニケーション	必須	60		60	
		Integrated English	必須	240		240	
		Critical Reading	必須	120		120	
		Global English Listening	必須	120		120	
		MOS	必須	120		120	
		ビジネスマネジメントの原理	必須		60	60	
		財務管理	必須		60	60	
		マーケティング・マネジメント	必須		60	60	
		マーケティング・コミュニケーション	必須		60	60	
		ミクロ経済学Ⅰ	必須		30	30	
		ミクロ経済学Ⅱ	必須		30	30	
		国際ビジネスⅠ	必須		30	30	
		国際ビジネスⅡ	必須		30	30	
		アカデミック・リスニングスピーキング	必須		180	180	
		アカデミック・ライティング	必須		180	180	
		アカデミック・リーディング	必須		180	180	
計				900	900	1800	

公務員(1年)学科　　平成30年度入学生

課程の名称	学科等の名称	授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数 第一学年	計	備考
文化教養専門課程	公務員学科	社会科学	必須	84	84	
		人文科学	必須	84	84	
		自然科学	必須	84	84	
		文章理解	必須	84	84	
		数的処理	必須	168	168	
		総合演習	必須	84	84	
		事務処理演習	必須	42	42	
		プレゼンテーション	必須	70	70	
		コンピュータ実技	必須	35	35	
		武道演習	選択	70	70	②
		ビジネス実務	選択	70	70	①
		体育演習	選択	70	70	②
		スポーツレクレーション	選択	70	70	①
		手話	選択	35	35	②
		英会話	選択	35	35	①
計				910	910	

① 公務員事務職コース

② 警察・消防・自衛官コース

公務員法律学科 行政事務職ｺｰｽ/警察官消防官ｺｰｽ/郵政・鉄道ｺｰｽ　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数			備考
				第一学年	第二学年	計	
文化教養専門課程	公務員法律学科	社会科学	必須	70	84	154	
		人文科学	必須	70	84	154	
		自然科学	必須	70	84	154	
		文章理解	必須	70	84	154	
		数的処理	必須	140	140	280	
		総合演習	必須	28	84	112	
		事務処理演習	必須	70	42	112	
		コンピュータ実技	必須	70	24	94	
		サービス接遇	必須	70		70	
		プレゼンテーション	必須	70	70	140	
		就職教養	必須	70	24	94	
		武道演習	選択	70	70	140	②
		ビジネス実務	選択	70	70	140	①③
		体育演習	選択	70	70	140	②
		スポーツレクレーション	選択	35	35	70	①③
		受験対策演習	選択	35	35	70	①③
		英会話	選択		28	28	②
		手話	選択		28	28	①③
計				938	888	1826	

① 行政事務職コース

② 警察官消防官コース

③ 郵政・鉄道コース

公務員法律学科 一般職・上級コース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数 第一学年	第二学年	第三学年	計	備考
文化教養専門課程	公務員法律学科	社会科学	必須	70	84	70	224	
		人文科学	必須	70	84	70	224	
		自然科学	必須	70	84	70	224	
		文章理解	必須	70	84	70	224	
		数的処理	必須	140	140	70	350	
		総合演習	必須	28	84	70	182	
		事務処理演習	必須	70	42	70	182	
		コンピュータ実技	必須	70	24	70	164	
		サービス接遇	必須	70		70	140	
		プレゼンテーション	必須	70	70	70	210	
		就職教養	選択	70	24		94	
		武道演習	選択	70	70	70	210	②
		ビジネス実務	選択	70	70	70	210	①③
		体育演習	選択	70	70	70	210	②
		スポーツレクレーション	選択	35	35	70	140	①③
		受験対策演習	選択	35	35	28	98	①③
		英会話	選択		28	28	56	②
		手話	選択		28		28	①③
		行政書士	選択			70	70	④
		宅建	選択			70	70	⑤
計				938	888	938	2764	

※ ①～③の中から1つを選択

※ ④と⑤のどちらかを選択

公務員法律学科　専門職・上級コース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数					備考
				第一学年	第二学年	第三学年	第四学年	計	
文化教養専門課程	公務員法律学科	社会科学	必須	70	84	70	70	294	
		人文科学	必須	70	84	70	70	294	
		自然科学	必須	70	84	70	70	294	
		文章理解	必須	70	84	70	70	294	
		数的処理	必須	140	140	70	70	420	
		総合演習	必須	28	84	70	70	252	
		事務処理演習	必須	70	42	70	42	224	
		コンピュータ実技	必須	70	24	70	70	234	
		サービス接遇	必須	70		70	70	210	
		プレゼンテーション	必須	70	70	70	70	280	
		就職教養	選択	70	24			94	
		武道演習	選択	70	70	70	70	280	②
		ビジネス実務	選択	70	70	70	70	280	①③
		体育演習	選択	70	70	70		210	②
		スポーツレクレーション	選択	35	35	70		140	①③
		受験対策演習	選択	35	35	28	28	126	①③
		英会話	選択		28	28	28	84	②
		手話	選択		28			28	①③
		行政書士	選択			70	70	140	④
		宅建	選択			70	70	140	⑤
計				938	888	938	840	3604	

※ ①～③の中から1つを選択

※ ④と⑤のどちらかを選択

国際ITビジネス学科　１．５年コース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数				備考
				前期	中期	後期	計	
商業実務専門課程	国際ITビジネス学科	第1外国語	必修	160	184	160	504	
		第2外国語	必修	40	46	40	126	
		IT実務基礎演習	必修	40	46	40	126	
		IT活用概論	必修	40	46	40	126	
		ビジネス教養	必修	20	23	20	63	
		国際マーケティング概論	必修	60	69	60	189	
		経理基礎	必修	40	46	40	126	
計				400	460	400	1260	

国際ITビジネス学科　２年コース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数			備考
				第一学年	第二学年	計	
商業実務専門課程	国際ＩＴビジネス学科	第1外国語	必修	344	344	688	
		第2外国語	必修	86	86	172	
		IT実務基礎演習	必修	86	86	172	
		IT活用概論	必修	86	86	172	
		ビジネス教養	必修	43	43	86	
		国際マーケティング概論	必修	129	129	258	
		経理基礎	必修	86	86	172	
計				860	860	1720	

国際ITビジネス学科　４年コース

平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数					備考
				第一学年	第二学年	第三学年	第四学年	計	
商業実務専門課程	国際ＩＴビジネス学科	第1外国語	必修	344	344			688	
		第2外国語	必修	86	86	86	86	344	
		ビジネスコミュニケーション演習	必修			430	430	860	
		IT実務基礎演習	必修	86	86			172	
		IT活用概論	必修	86	86			172	
		IT実務応用演習	必修			86	86	172	
		IT活用特講	必修			86	86	172	
		ビジネス教養	必修	43	43			86	
		国際マーケティング概論	必修	129	129			258	
		国際マーケティング演習	必修			172	172	344	
		経理基礎	必修	86	86			172	
計				860	860	860	860	3440	

日本語学科　進学1．5年コース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数				備考
				前期 19週	中期 23週	後期 19週	計	
文化教養専門課程	日本語学科　進学1．5年コース	文法	必須	209	230	190	629	
		表記	必須	57	69	57	183	
		聴解	必須	57	46	38	141	
		会話	必須	19	23	19	61	
		読解	必須	38	46	38	122	
		作文	必須		46	38	84	
計				380	460	380	1,220	

日本語学科　進学2年コース　　平成30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須選択の別	年次別授業時間数					備考
				第1学年前期 23週	第1学年後期 19週	第2学年前期 23週	第2学年後期 19週	計	
文化教養専門課程	日本語学科　進学２年コース	文法	必須	253	209	230	190	882	
		表記	必須	69	57	69	57	252	
		聴解	必須	69	38	46	38	191	
		会話	必須	23	19	23	19	84	
		読解	必須	46	38	46	38	168	
		作文	必須		19	46	38	103	
計				460	380	460	380	1680	

第９条　本校の始業及び終業の時刻は、次のとおりとする。

（１）昼間は、午前９時１５分から午後４時４５分までとする。
日本語学科、国際 IT ビジネス学科は、
午前９時００分から午後４時３０分までとし、午前９時００分から午後１２時２０分と午後１時０５分から午後４時２５分の２部制とする。

（２）別科は、午前９時００分から午後８時３０分までとする。

第１０条　本校に次の教職員を置く。

（１）校　長		１　名
（２）教　員	工業関係	５　名以上
	商業実務関係	１０　名以上
	文化教養関係	７　名以上
（３）講　師	工業関係	必要に応じて置く
	商業実務関係	必要に応じて置く
	文化教養関係	必要に応じて置く
（４）助　手		必要に応じて置く
（５）事務職員		２　名以上
（６）学校医		１　名

２　校長は、校務を処理し、所属職員を監督する。

第　４　章　入学、休学、退学等

第１１条　本校の入学資格は、高等学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者、文部科学大臣の定めるところにより、これに準ずる学力があると認められた者、外国において学校教育における１２年以上の課程を修了した者、または、これに準ずる学力を有する者で校長が適当と認める者とする。

第１２条 本校の入学時期は、学年の始めとする。

第１３条 本校の入学手続きは、次のとおりとする。

（１）本校に入学しようとする者は、本校の定める入学願書に必要事項を記載して、別に定める入学検定料を添えて指定期日までに出願しなければならない。

（２）前号の手続きを終了した者に対して入学試験を行い、入学者を決定する。

（３）本校に入学を許可された者は、別に定める期間内に第２３条の入学金を添え手続きをとらなければならない。

第１４条　学生が疾病、その他やむを得ない事由によって３日以上休学する場合は、診断書及びその事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

第１５条　退学しようとする場合は、その事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

第１６条　次の各号の一に該当する者には、退学を命ずることがある。

（１）性行不良で改善の見込がないと認められる者。

（２）学力劣等で成業の見込がないと認められる者。

（３）正当な理由がなくて出席が常でない者。

（４）学校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者。

第１７条　本校の転・編入学、転出、転学科は、次のとおりとする。

（１）他の大学・短期大学または専門学校等から、本校の相当年次に転・編入学を希望する者がある場合には、その事由及び学力等を審査の上、許可することができる。

（２）他の教育機関への転出を希望する者は、転学願と転学希望理由書を添えて校長に願い出、許可を受けなければならない。

（３）本校内において転学科を希望する者は、転学科願を添えて校長に願い出、許可を受けなければならない。但しその時期は学年の初めとする。

第１８条　学生が相当の期間所定の学費を納入しない場合、又は行方不明で請求が不可能な場合は除籍とする。

第　５　章　単位修得、課程修了の認定および称号の授与

第１９条　本校所定の課程を修了した者には、学習評価の上、本校所定の卒業証書を授与する。

（１）「専修学校の専門課程の修了者に対する専門士及び高度専門士の称号の付与に関する規程(平成１７年文部科学省告示第１３９号)」第２条に基づく告示を受けた工業専門課程を修了したと認めた者には専門士（工業専門課程）の称号を付与する。

また、商業実務専門課程を修了したと認めた者には専門士（商業実務専門課程）の称号を付与する。

さらに、文化教養専門課程を修了したと認めた者には専門士（文化教養専門課程）の称号を付与する。

（２）「専修学校の専門課程の修了者に対する専門士及び高度専門士の称号の付与に関する規程(平成１７年文部科学省告示第１３９号)」第３条に基づく告示を受けた工業専門課程を修了したと認めた者には高度専門士（工業専門課程）の称号を付与する。

また、商業実務専門課程を修了したと認めた者には高度専門士（商業実務専門課程）の称号を付与する。

さらに、文化教養専門課程を修了したと認めた者には高度専門士（文化教養専門課程）の称号を付与する。

第２０条　成績評価は、原則として前期・後期・通年で評価をし、検定取得状況・出席率・履修状況等を総合的に勘案して行う。

第２１条　他の専修学校・大学等において、第８条に定める科目を履修した場合は、各課程の修了に必要な総時数の２分の１を超えない範囲で当該課程における授業科目の履修とみなす。

第２２条　成績優秀にして、他の模範となる者は、これを褒賞することがある。

第　６　章　　入学金、授業料、その他

第２３条　本校の入学金、学費等は次の通りとする。

課程名	学科名	コース名	入学金	学費		
				授業料（年額）	施設設備費（年額）	
工業専門課程	情報処理学科	アルティメット（高度専門士）	100,000円	600,000円	220,000円	
		アドバンスト				
		システム開発				
		システム運用				
		ネットワークセキュリティ				
	モバイルアプリクリエイター学科	モバイルアプリクリエイター	100,000円	600,000円	220,000円	
		ＩＣＴクラウドサービスエンジニア				
商業実務専門課程	総合ビジネス学科	ＩＴマスター	100,000円	600,000円	220,000円	
		経理事務				
		販売サービス				
		オフィスビジネス				
	トラベルホテル学科	トラベルサービス	100,000円	600,000円	170,000円	
		ホテルサービス				
	グローバル英語学科	英語速習（１年）	100,000円	600,000円(1年次)	180,000円	
		海外留学		1,056,248円(2年次留学)		
	国際ITビジネス学科	１．５年	100,000円	900,000円	285,000円	(1.5年分)
		２年	100,000円	600,000円	190,000円	
		４年				
文化教養専門課程	デジタルクリエイター学科	CG･ｹﾞｰﾑ･ｱﾆﾒ･映像	100,000円	600,000円	220,000円	
		イラスト・まんが				
	公務員法律学科	行政事務職	100,000円	600,000円	190,000円	
		警察官・消防官				
		郵政・鉄道				
		一般職・上級				
		専門職・上級				
	公務員(１年)学科	公務員事務職	100,000円	600,000円	190,000円	
		警察・消防・自衛官				
	日本語学科	進学１．５年	50,000円	660,000円	180,000円	(1.5年分)
		進学２年		440,000円	120,000円	

第２４条　寄宿舎に関する事項は、校長が別に定める。

第２５条　健康診断は年１回、別に定めるところにより実施する。

附　則
　この学則は、昭和６０年４月１日より実施する。
附　則
　この学則は、昭和６１年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、昭和６３年４月１日から施行する
附　則
　この学則は、平成元年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成２年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成３年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成４年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成５年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成６年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成７年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成８年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成９年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１０年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１１年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１２年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１３年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１４年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１５年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１７年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１８年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則
　この学則は、平成２０年１０月１日から施行する。
附　則
　この学則は、平成２１年４月１日から施行する。
　ただし、平成２０年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成２２年４月１日から施行する。
　ただし、第８条に定める教育課程については、平成２１年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成２３年４月１日から施行する。
　ただし、平成２２年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成２４年４月１日から施行する。
　ただし、平成２３年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成２５年４月１日から施行する。
　ただし、平成２４年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成２６年４月１日から施行する。
　ただし、平成２５年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成２７年４月１日から施行する。
　ただし、平成２６年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成２８年４月１日から施行する。
　ただし、平成２７年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成２９年４月１日から施行する。
　ただし、平成２８年度以前の入学者については従前の規定を適用する。
附　則
　この学則は、平成３０年４月１日から施行する。
　ただし、平成２９年度以前の入学者については従前の規定を適用する。

国際介護福祉専門学校　学則

第１章　　総　　則

（目的）

第１条　本校は、社会福祉士及び介護福祉士法第３９条第１号の規定に基づき、介護福祉士を養成することおよび児童福祉法第１８条の６第１号の規定に基づき、保育士を養成することを目的とするとともに、教育基本法並びに学校教育法第１２４条及び第１２５条の規定に基づき、高等学校教育の基礎の上に教育・社会福祉及び商業実務関係の知識と技能を授ける専門課程を設置し、人格の陶冶をはかり広く地域社会に貢献しうる人材を育成することを目的とする。

（名称）

第２条　本校は、国際介護福祉専門学校（以下「本校」という。）という。

（位置）

第３条　本校は、宇都宮市大通り１丁目２番地５に置く。

第２章　　課程の組織、収容定員、休日等

（課程の組織、修業年限、収容定員等）

第４条　本校に、教育・社会福祉専門課程および商業実務専門課程を置く。

２　学科、修業年限および収容定員等は、次のとおりとする。

課程名	学科名	昼夜別	修業年限	男女別	入学定員	総定員	学級数	備考
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	昼	２年	男・女	６０名	１２０名	4	
	福祉総合学科	昼	２年	男・女	３０名	６０名	2	
	こども保育学科	昼	２年	男・女	２０名	４０名	2	
	こども学科	昼	３年	男・女	４０名	１２０名	3	
商業実務専門課程	医療事務学科	昼	２年	男・女	４０名	８０名	2	

３　本科の始業時刻は午前９時１５分、終業時刻は午後４時４５分とする

なお、始業時刻及び終業時刻については、校長が教育上必要と認める場合に変更することがある。

（学年）

第５条　学年は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。

（学期）

第６条　学期は、次のとおりとする。

前期　　４月１日から　　９月３０日まで

後期　　１０月１日から翌年３月３１日まで

（休業日）

第７条　休業日は、次のとおりとする。

（１）土曜日・日曜日

（２）国民の祝日に関する法律で規定する日

（３）夏季休業　　７月第４週から８月第３週

（４）冬季休業　　１２月第４週から１月第１週

（５）春季休業　　２月第２週から４月第２週

但し、介護福祉学科は次のとおりとする。

１年次

夏季休業　　７月１７日から８月１６日までの３１日間

冬季休業　　１２月２３日から１月４日までの８日間

春季休業　　２月１８日から４月２日までの４５日間

２年次

夏季休業　　７月３０日から８月２１日までの２３日間

冬季休業　　１２月２３日から１月４日までの８日間

春季休業　　２月１８日から３月９日までの１１日間

（６）その他校長が必要と認めた日

２　教育上必要があり、かつ、やむを得ない事情があると校長が認めたときは、前項にかかわらず、休業日に授業を行うことができる。

第３章　　入学、転入学・編入学、退学及び休学等

（入学資格）

第８条　本校の入学資格は、次のとおりとする。

（１）高等学校を卒業した者並びに高等専門学校の３年を修了した者及び、特別支援学校の高等部を修了した者

（２）外国において、学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

（３）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（４）文部科学大臣の指定した者

（５）高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

（６）修業年限が３年の専修学校の高等課程を修了した者

（７）その他校長が、高等学校を卒業した者に準ずる学力があると認めた者で、１８歳に達した者

（入学許可）

第９条　入学を希望する者には、書類・筆記及び面接による選考を行ない、校長が入学を許可する。

（出願手続）

第１０条　本校に入学を志望する者は、本校の定める入学志願書等に必要事項を記載して、第２６条に定める入学検定料及び必要書類を添えて、指定期日までに出願しなければならない。

（入学手続）

第１１条　入学を許可された者は、許可のあった日から７日以内に誓約書等に入学金を添えて、提出しなければならない。

（転入学・編入学）

第１２条　他の大学・短期大学・専門学校など卒業、修了、退学し、本校の相当学年次に転入学または編入学を志望する者は、学習の進度が同程度であり、かつやむを得ない事情があると認めた場合について選考の上、校長が許可する。その時期は学年の初めとする。

２　在学中に他の学校養成所等に転学を希望するときは、定められた転学願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

３　他の教育機関への転出を希望する者は、転学願と転学希望理由書を添えて校長に願い出、許可を受けなければならない。

４　本校内において転学科を希望する者は、転学科希望願を添えて校長に願い出、許可を受けなければならない。

（入学時期）

第１３条　入学時期は、学年の始めとする。

（退学・除籍）

第１４条　学生が退学しようとするときは、所定の書類にその理由を明記し、校長の許可を受けなければならない。

２　学生が正当な理由がなく、かつ所定の手続を行わず授業料、施設設備費、維持費等を２ヶ月以上滞納し、その後においても納入の見込みがない場合、又は行方不明で請求が不可能な場合は除籍とすることができる。

（欠席・休学）

第１５条　学生が疾病、その他やむを得ない事由により３日以上欠席するときは、診断書及びその理由を明記し、速やかに校長に届け出なければならない。

２　学生が病気、その他やむを得ない事由により１ケ月以上出席することができないときは、所定の書類にその理由を明記し、校長に休学を願い出なければならない。

（出席停止）

第１６条　学生が感染症にかかり、またはその恐れがあるとき、その他校長が必要と認めるときは、政令で定めるところにより、その生徒に対し出席停止を命ずることができる。

（復学）

第１７条　病気、その他の休学事由が消滅し、出校が可能となったときには所定の書類にその旨を明記し校長に復学を願い出なければならない。

（身上事項の異動の届出）

第１８条　学生及び保護者の氏名、本籍、住所の変更等身上事項について異動があったときには、速やかに届け出なければならない。

第４章　　教育課程、学習の評価、授業時数、卒業等

（教育課程）

第１９条　本校の教育課程及び授業時数は、別表のとおりとする。

介護福祉学科 介護福祉ｺｰｽ/医療福祉ｺｰｽ/福祉事務ｺｰｽ

30年度入学生

課程・学科等の名称		領域	授業科目	必須・選択の選択	年次別授業時間数			備考
					第一学年	第二学年	計	
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	人間と社会	人間の尊厳と自立	必須	30		30	
			人間関係とコミュニケーション	必須	30	30	60	
			人間関係と心理学	必須	30		30	
			社会の理解	必須		60	60	
			家政学	必須		30	30	
			生命科学	必須	30		30	
			日本文化	必須	30		30	
			レクリエーション	必須	60		60	
		介護	介護の基礎Ⅰ	必須	150		150	
			介護の基礎Ⅱ	必須		30	30	
			コミュニケーション技術	必須		60	60	
			生活支援技術Ⅰ	必須	180		180	
			生活支援技術Ⅱ	必須		60	60	
			生活支援技術Ⅲ	必須		60	60	
			介護過程Ⅰ	必須	60		60	
			介護過程Ⅱ	必須		90	90	
			介護総合演習Ⅰ	必須	90		90	
			介護総合演習Ⅱ	必須		30	30	
			介護実習Ⅰ	必須	120	16	136	
			介護実習Ⅱ	必須	80	240	320	
		こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	必須		60	60	
			認知症の理解Ⅰ	必須	30		30	
			認知症の理解Ⅱ	必須		30	30	
			障害の理解Ⅰ	必須	30		30	
			障害の理解Ⅱ	必須		60	60	
			こころとからだのしくみ	必須	120		120	
		医療的ケア	医療的ケアⅠ	必須	60		60	
			医療的ケアⅡ	必須		60	60	
		指定外科目	ミドルウエア実習	必須		60	60	
			試験対策	必須		90	90	
			特別講義	必須	15	15	30	
合計					1,145	1,081	2,226	

福祉総合学科　福祉総合コース　　30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須・選択の選択	年次別授業時間数 第一学年	第二学年	計	備考
教育・社会福祉専門課程	福祉総合学科	生活支援技術	必須	120	120	240	
		コミュニケーション技術	必須	30		30	
		障害者の理解	必須		30	30	
		認知症の理解	必須		30	30	
		発達と老化の理解	必須		30	30	
		人間関係と心理学	必須	30	30	60	
		日本文化	必須	30	30	60	
		社会福祉概論	必須	30		30	
		レクリエーション概論	必須	30		30	
		レクリエーション活動援助法	必須	60		60	
		家政学	必須		90	90	
		住環境	必須	90		90	
		福祉活動	必須	45	45	90	
		手話	必須		30	30	
		点字	必須		30	30	
		ケアクラーク	必須	90		90	
		初任者研修	必須		130	130	
		福祉用具専門相談員	必須	30		30	
		校外実習	必須	70	130	200	
		生命科学	必須		30	30	
		福祉研究・卒業研究	必須	60	60	120	
		国語表現法	必須		60	60	
		計算実務	必須	60		60	
		ミドルウエア実習	必須	30	60	90	
		ビジネスマナー	必須		30	30	
		一般常識	必須	30		30	
		就職実務	必須		30	30	
合計				835	995	1,830	

医療事務学科　医療事務･ﾄﾞｸﾀｰｽﾞｸﾗｰｸｺｰｽ/ﾋﾞｭｰﾃｨｸﾘﾆｯｸｺｰｽ/調剤事務･登録販売者ｺｰｽ/歯科ｱｼｽﾀﾝﾄｺｰｽ　30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須・選択の選択	年次別授業時間数			備考
				第一学年	第二学年	計	
商業実務専門課程	医療事務学科	医療事務Ⅰ	必須	306		306	
		秘書Ⅰ	必須	272		272	
		解剖生理	必須	34		34	
		薬剤薬理	必須	34		34	
		国語表現法	必須	34		34	
		マナー実践Ⅰ	必須	68		68	
		コンピュータ実習Ⅰ	必須	102		102	
		医療関連法規	必須	34		34	
		手話Ⅰ	必須	68		68	
		計算実務	必須	34		34	
		ビジネス実践Ⅰ	必須	34		34	
		マナー実践Ⅱ	必須		68	68	
		就職実務	必須		68	68	
		手話Ⅱ	必須		68	68	
		コンピュータ実習Ⅱ	必須		68	68	
		コンピュータレセプト	必須		102	102	
		病態生理学	必須		34	34	
		看護学	必須		68	68	
		薬学	必須		68	68	
		社会福祉・障害者福祉	必須		68	68	
		秘書Ⅱ	必須		102	102	
		ビジネス実践Ⅱ	必須		34	34	
		医療事務実践	必須		68	68	
		ドクターサポート	必須		102	102	
合計				1020	918	1,938	

こども学科 幼稚園教諭･保育士ｺｰｽ/公立保育所ｺｰｽ/こどもｽﾎﾟｰﾂｺｰｽ/絵本･おもちゃｺｰｽ/こども音楽ｺｰｽ　30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須・選択の選択	年次別授業時間数				備考
				第一学年	第二学年	第三学年	計	
教育・社会福祉専門課程	こども学科	英会話Ⅰ	必須	32			32	
		健康科学	必須	32			32	
		日本国憲法	必須	32			32	
		情報処理入門Ⅰ	必須	64			64	
		音楽(器楽･声楽)	必須	128	128	128	384	
		教育原理	必須	32			32	
		教育心理学	必須	32			32	
		造形表現	必須	32			32	
		図画工作	必須	64	96	64	224	
		家庭支援論	必須		32		32	
		音楽(理論)	必須	32			32	
		社会福祉	必須	32			32	
		障害児保育	必須		32		32	
		児童家庭福祉	必須		32		32	
		子どもの保健Ⅰ	必須	32	32		64	
		子どもの食と栄養	必須		32		32	
		保育原理	必須		32		32	
		社会的養護	必須	32			32	
		乳児保育	必須			32	32	
		児童文化	必須			32	32	
		発達心理学	必須		32		32	
		言葉Ⅱ	必須		32		32	
		教育課程総論	必須	32			32	
		教育方法論	必須	32			32	
		教職概論	必須	32			32	
		教育相談	必須		32		32	
		保育･教職実践演習	必須		32		32	
		マナー実践	必須	32	32		64	
		国語表現法	必須	64	64		128	
		レクリエーション	必須	64		64	128	
		就職実務	必須	64	64	64	192	
		保育実践	必須			96	96	
		コンピュータ実習	必須			64	64	
		実習事前事後指導	必須	64	96	64	224	
		幼稚園教育実習	必須		80	80	160	10日間2回
		保育実習Ⅰ･Ⅱ	必須		80	160	240	10日間3回
計				960	960	848	2,768	

こども保育学科 保育士・幼稚園教諭ｺｰｽ

30年度入学生

課程・学科等の名称		授業科目	必須・選択の別	年次別授業時間数 第一学年	第二学年	計	備考
教育・社会福祉専門課程	こども保育学科	日本国憲法	必須	30		30	
		情報処理入門	必須	60		60	
		国語表現法	必須	60		60	
		就職実務	必須		60	60	
		英会話	必須	30		30	
		健康科学	必須	15		15	
		体育	必須	15		15	
		保育原理	必須		30	30	
		教育原理	必須	30		30	
		児童家庭福祉	必須		30	30	
		社会福祉	必須	30		30	
		相談援助	必須		15	15	
		社会的養護	必須	30		30	
		保育者論	必須	30		30	
		発達心理学	必須		30	30	
		教育心理学	必須	30		30	
		子どもの保健Ⅰ	必須	30		30	
		子どもの保健Ⅱ	必須		30	30	
		子どもの保健Ⅲ	必須		30	30	
		子どもの食と栄養	必須		30	30	
		家庭支援論	必須		30	30	
		教育課程総論	必須	30		30	
		保育内容総論	必須	30		30	
		健康	必須	15		15	
		人間関係	必須	15		15	
		環境	必須	15		15	
		言葉	必須		15	15	
		表現Ⅰ	必須	30		30	
		乳児保育	必須		30	30	
		障がい児保育	必須		30	30	
		社会的養護内容	必須		15	15	
		保育相談支援	必須		30	30	
		音楽Ⅰ・Ⅱ	必須	120	120	240	
		図画工作Ⅰ・Ⅱ	必須	60	60	120	
		幼児体育	必須		30	30	
		保育実習Ⅰ	必須	90	90	180	
		保育実習事前事後指導	必須	60		60	
		保育実践演習	必須		30	30	
		児童家庭福祉Ⅱ	選択必修	30	30	60	
		精神保健	選択必修	30	30	60	
		臨床心理学	選択必修	30	30	60	
		子どもと文学	選択必修	30	30	60	
		表現Ⅱ	選択必修	15	15	30	
		表現Ⅲ	選択必修	15	15	30	
		言葉Ⅱ	選択必修	15	15	30	
		音楽理論	選択必修	30	30	60	
		言語表現	選択必修	15	15	30	
		子どもと音楽	選択必修	15	15	30	
		保育実習Ⅱ	必須		90	90	
		保育実習事前事後指導Ⅱ	必須		60	60	
		教育実習	必須		160	160	
		教育方法論	必須	30		30	
		教育相談	必須		30	30	
計				930	1,120	2,050	

※選択必修科目の中から1年次45時間分　2年次45時間分選択

（学習の評価）

第２０条　学習の評価は学科試験、実習評価および日常の学習状況をもって行なう。

２　学科試験は定期試験および随時試験とし、実習の評価は、別に定める実習評価基準に基づき行なう。

３　出席時間が所定時間の７０％（ただし、介護福祉学科においては各科目の３分の２、介護実習の５分の４）に満たない者は科目の評価を受ける資格を失う。

４　学習の評定基準は各科目について１００点満点で換算し、以下の基準を目安とする。Ａ（100 ～80）　Ｂ（79～70）　Ｃ（69～60）　Ｄ（59～0 ）また、６０点以上を合格点とする。

５　学習の評価が合格点に満たない者は授業科目については再試験を受けることができ、又､校内実習および校外施設実習については補習を行ない再評価を受けることができる。

６　疾病その他、やむを得ない理由により試験および実習を修了しなかった者は追試験および補習を受けることができる。

（入学前の授業科目の履修等）

第２１条　学則第１２条に該当する者で、介護福祉学科を希望する者は、他の学校等において履修した科目は、申請に基づき、個々の既修の学習内容を当該学校等の単位、履修時間、シラバス等により評価し、本校の総履修時間の２分に１を超えない範囲で履修を認定する。

（原級留置）

第２２条　学生のうちで当該学年における所定の教育課程を修了することができなかった者については、原学年に留め置くことがある。また進級させても、所定の単位を修得していない者には、補講その他の方法で当該科目の単位を修得せしめることがある。但し、在学期間は、こども保育学科・介護福祉学科・福祉総合学科及び医療事務学科は３ケ年、こども学科は４ケ年を超えることができない。

（卒業）

第２３条　校長は、学生が本校所定の教育課程を修了し、卒業試験に合格したと認めたときは、本校所定の卒業証書を授与する。

（称号の授与）

第２４条　「専修学校の専門課程の修了者に対する専門士の称号の付与に関する規程（平成６年文部省第告示第８４号）」第３条に基づく告示を受けた教育・社会福祉専門課程を修了したと認めた者には専門士（教育・社会福祉専門課程）の称号を付与する。

また、商業実務専門課程を修了したと認めた者には専門士（商業実務専門課程）の称号を付与する。

第５章　　教職員組織

（教職員）

第２５条　本校に次の教職員を置く。

（１）	校　　長	１名	
（２）	副 校 長	１名	
（３）	教　　員	専門課程教育・社会福祉関係	９名以上
		専門課程商業実務関係	３名以上
（４）	助　　手	必要に応じて置く	
（５）	講　　師	必要に応じて置く	
（６）	事務職員	２名以上	
（７）	学校医	１名以上	

第６章　　入学金、授業料、施設設備費及び入学検定料等

（入学金、授業料、施設設備費、及び入学検定料）

第２６条　本校の入学金、授業料、施設設備費及び入学検定料は次の通りとする。

課程名	学科名	入学金	授業料（年額）	施設設備費（年額）	入学検定料
教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科	100,000 円	600,000 円	200,000 円	20,000 円
	福祉総合学科	100,000 円	600,000 円	170,000 円	20,000 円
	こども保育学科	100,000 円	600,000 円	180,000 円	20,000 円
	こども学科	100,000 円	600,000 円	180,000 円	20,000 円
商業実務専門課程	医療事務学科	100,000 円	600,000 円	180,000 円	20,000 円

２　教科書・教材費・行事費・校外施設における実習費等は、上記学費とは別に必要に応じ別途定める。

３　本校の納入金の納入方法については、別途定める。

４　一旦納入された入学金、授業料、施設設備費等は原則として返還しない。

５　特別の事情があると認めた者には学費等を減免することがある。

６　入学検定料は一般入学の応募者の金額とする。

第７章　　賞　　罰

（褒賞）

第２７条　学生がその成績、性行ともに優れ他の模範となるときは、褒賞することがある。

（懲戒）

第２８条　校長が教育上必要と認めたときは、次の懲戒処分を行う。

（１）訓　告

（２）停　学

（３）退　学

２　前項の退学は、学生が次の各号のいずれかに該当する場合にのみ行うものとする。

（１）性行不良で改善の見込がないと認められる者

（２）学力劣等で成業の見込がないと認められる者

（３）正当の理由がなくて出席が常でない者

（４）学校の秩序を乱しその他学生としての本分に反した者

第８章　　附帯教育事業

（附帯教育事業）

第２９条　附帯教育事業として次のとおり別科を設置する。

科　　名	修業期間	授業時数	定員	備　考
訪問介護員２級課程　養成研修	６ケ月	１３０時間	４０名	
福祉用具専門相談員指定講座	３ケ月	４０時間	４０名	
視覚障害者移動介護従業者養成研修課程	３週間	２１時間	４０名	
全身性障害者移動介護従事者養成研修課程				
介護技術者講習会	１ケ月	３２時間	４０名	
医療事務コース	３ケ月	７０時間	２０名	
調剤薬局事務コース	１ケ月	２０時間	２０名	
介護事務コース	２ヶ月	３０時間	２０名	

２　別科の入学金、授業料、教育課程その他必要な事項は、別に定める。

第９章　　補　　則

第３０条　健康診断は、年１回別に定めるところにより実施する。

第３１条　この学則の実施についての必要な事項は、校長が別に定める。

附　　則

１．この学則は平成１１年４月１日から施行する。

２．平成１２年４月１日一部改定。

３．平成１４年４月１日一部改定。

４．平成１５年４月１日一部改定。

５．平成１６年４月１日一部改定。

６．平成１７年４月１日一部改定。

７．平成１８年４月１日一部改定。

８．平成１９年４月１日一部改定。

９．平成２０年４月１日一部改定。

１０．平成２１年４月１日一部改正。

ただし、平成２１年度以前入学者については従前の規定を適用する。

１１．平成２２年４月１日一部改正。

ただし、第２６条の規定に関わらず平成２１年度以前に幼児教育学科に入学した生徒の施設設備費は１７万円である。

１２．平成２３年４月１日一部改正。

ただし、平成２１年度以前入学者及び医療秘書学科の平成２２年度入学者については従前の規定を適用する。

１３．平成２４年４月１日一部改正。

ただし、平成２３年度以前の入学者については従前の規定を適用する。

１４．平成２５年４月１日一部改正。

ただし、平成２４年度以前の入学者については従前の規定を適用する。

１５．平成２６年４月１日一部改正。

ただし、平成２５年度以前の入学者については従前の規定を適用する。

１６．平成２７年４月１日一部改正。

ただし、平成２６年度以前の入学者については従前の規定を適用する。

１７．平成２８年４月１日一部改正。

ただし、平成２７年度以前の入学者については従前の規定を適用する。

１８．平成２９年４月１日一部改正。

ただし、平成２８年度以前の入学者については従前の規定を適用する。

１９．平成３０年４月１日一部改正。

ただし、平成２９年度以前の入学者については従前の規定を適用する。